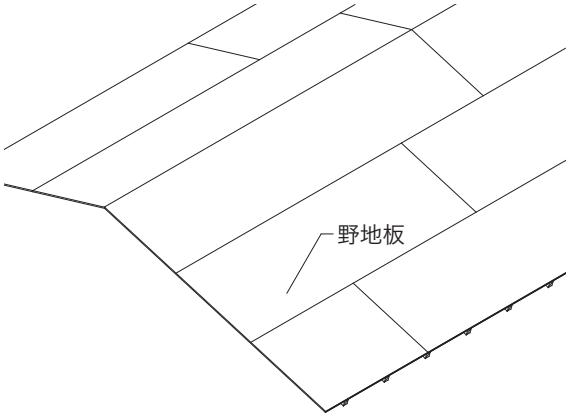
6 下地の確認と施工

6－1. 下地仕様の確認

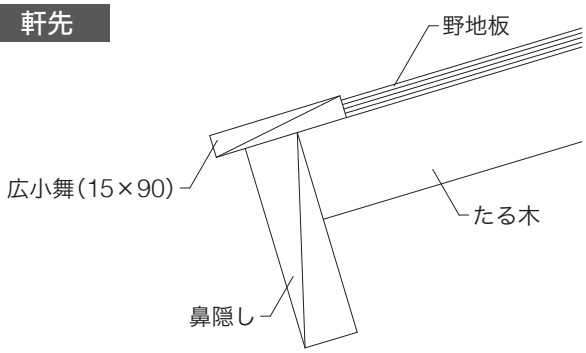
単位：㎜

・たる木と野地板が以下の仕様になっているか、また、受木類が適切なサイズで正しい位置に施工されているか確認してください。

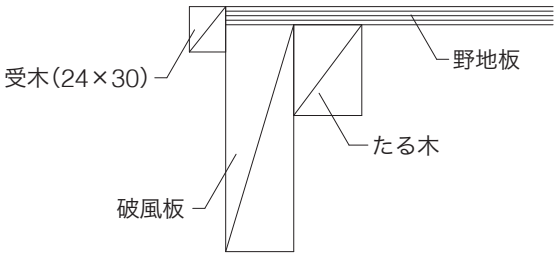
たる木	45×60mm以上、間隔455mm以下
野地板	構造用合板　特類2級（厚さ12㎜）など 注意：小幅板は使用しないでください。



軒先

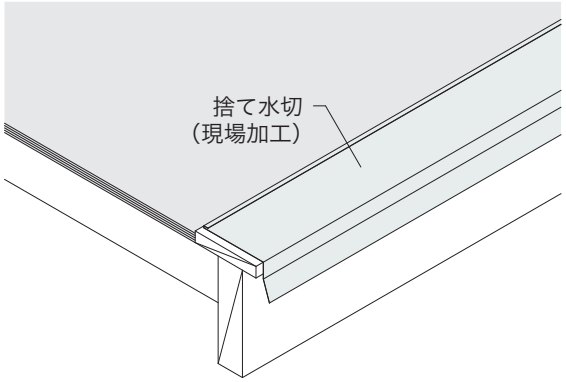


ケラバ

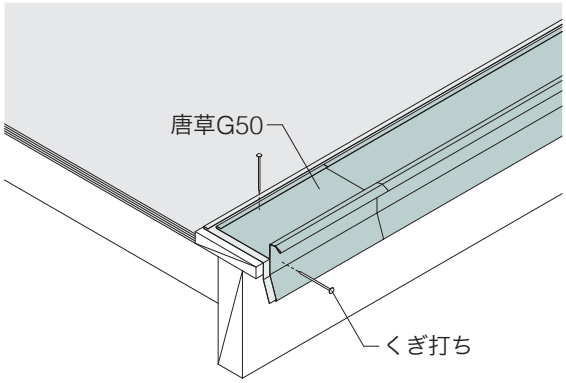


6－2. 唐草G50の取り付け

・捨て水切（現場加工）を施工してください。



・唐草G50を施工する前に墨出しを行い、墨出し線に合わせて施工してください。本体の仕上がりに影響します。
・唐草G50の垂れ部は、くぎ打ちして広小舞に留め付けてください。
・唐草G50同士のつなぎ方はP16を参照してください。



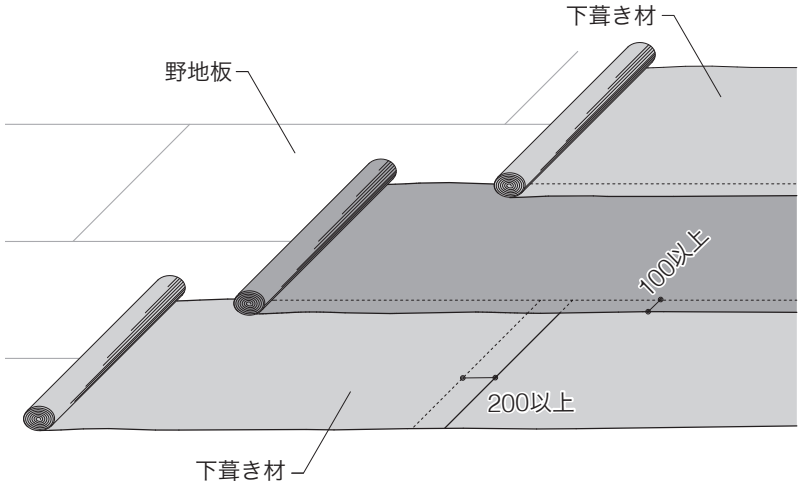
単位：㎜

6−3. 下葺き材の施工

下葺き材は、全面に施工してください。
勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に勾配と下葺き材の種類を確認してください。

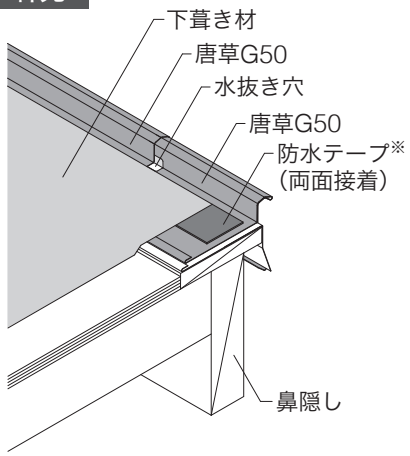
勾配	2.5 寸〜3.5 寸未満	3.5 寸以上
流れ長さ	7m 以下	20m 以下
下葺き材	粘着層付き改質アスファルトルーフィング	改質アスファルトルーフィング
ジョイント下地	ジョイント下地を施工	不要

一般部



・流れ方向100㎜以上、水平方向200㎜以上重ねてください。

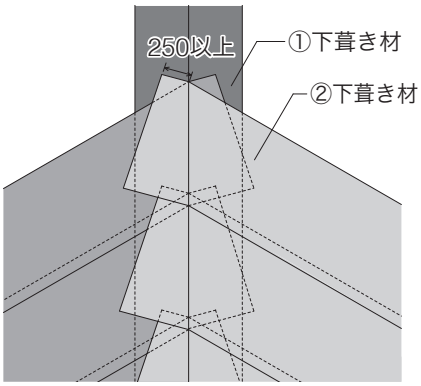
軒先



・唐草G50と下葺き材は、防水テープで密着してください。
・水抜き穴を下葺き材で、ふさがないように注意してください。

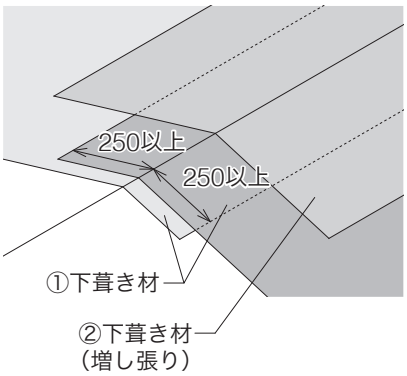
※　粘着層付き改質アスファルトルーフィングの場合は無し。

谷



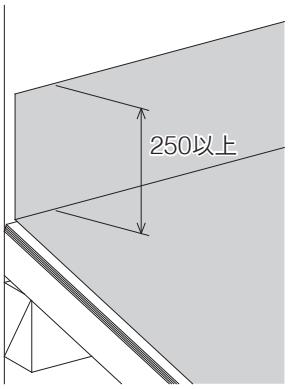
①谷の中心に合わせて施工してください。
②谷を越えて、片側250㎜以上ずつ重ねてください。

棟



①棟を越えて、片側250㎜以上重ねて施工してください。
②棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

壁との取り合い



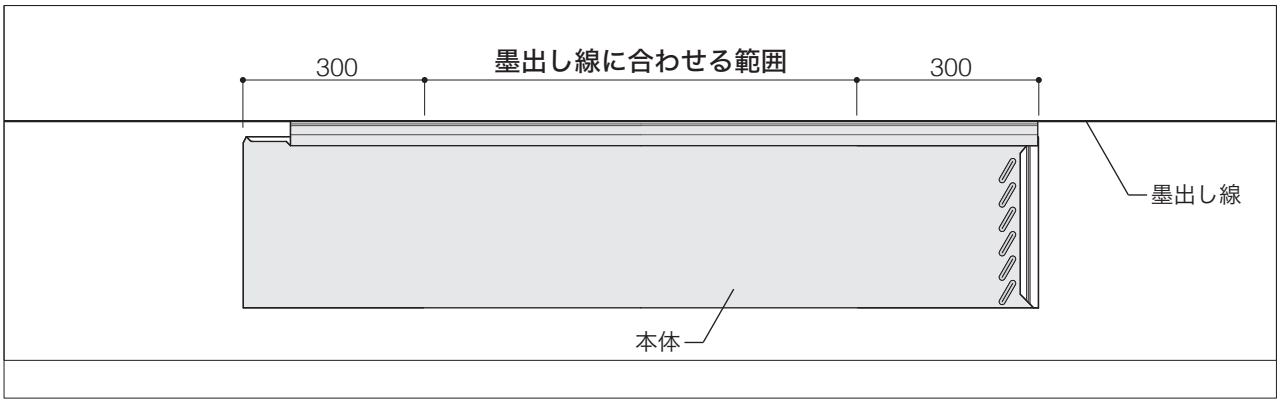
・下葺き材は、250㎜以上立ち上げて施工してください。

7 本体の施工とポイント

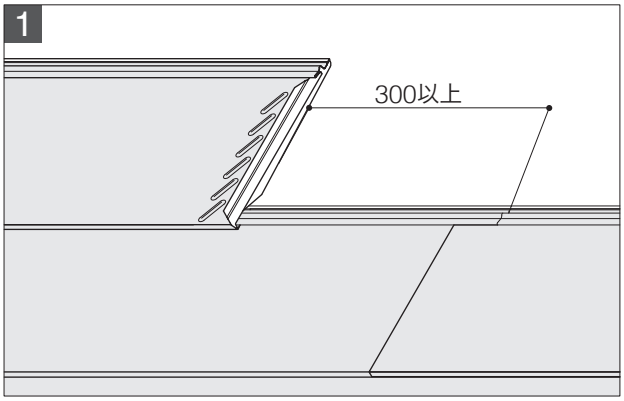
単位：㎜

7−1. 墨出し線への合わせ方

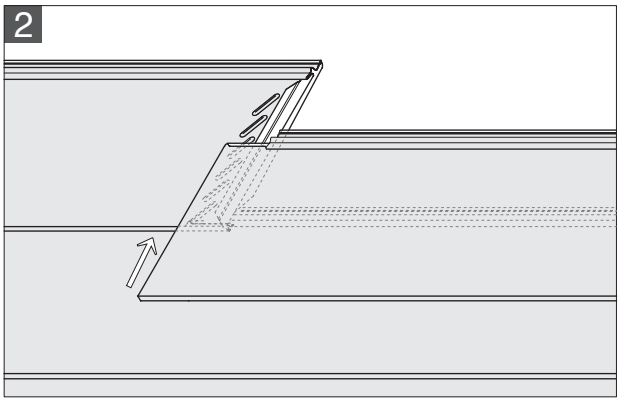
・本体を施工する前に、唐草G50が墨出し線に合わせて施工されている事を確認してください。
・本体は、左右両端の300㎜程度を除いた範囲を墨出し線に合わせて施工してください。



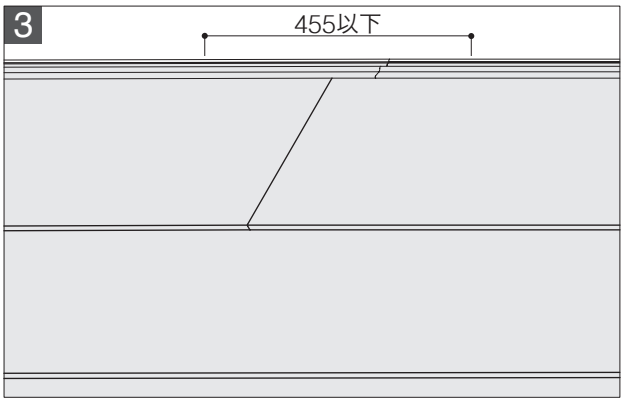
7−2. 本体の施工



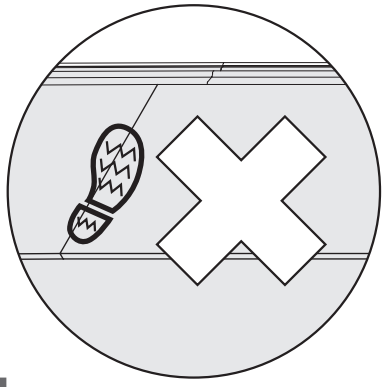
・施工は必ず左から右へ行ってください。
横継ぎは必ず横ジョイント部で行ってください。
・本体の横ジョイント部は上下で重ならないように**300㎜以上**離して割り付けてください。



・横ジョイントは、上図のようにはめ込んでください。
・横ジョイントでは、表面鋼板の重なり代を確保するために、左右で数㎜程度の段差が発生します。無理に押し込むと本体が歪むおそれがあります。墨出し線に合わせて施工されていることを確認してください。



・本体は、455㎜間隔以下で、たる木に留め付けてください。



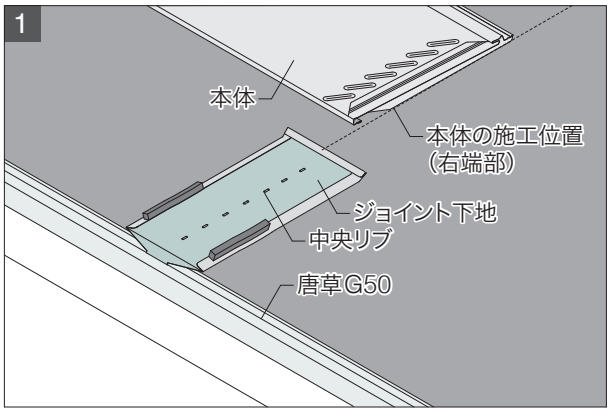
注意

横ジョイント部は、変形のおそれがありますので、上に乗ったり重量物を置いたりしないでください。

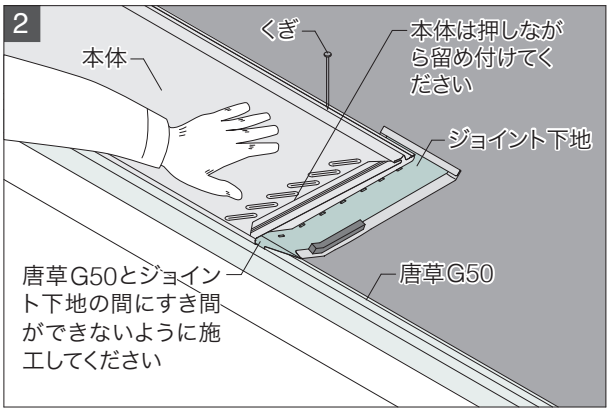
単位：㎜

7−3. ジョイント下地の施工

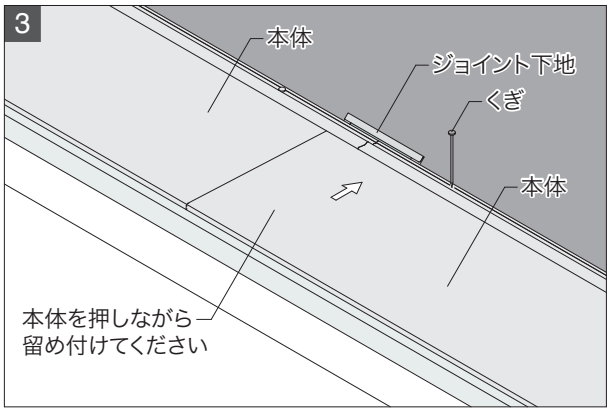
3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。
ジョイント下地は、くぎなどで穴をあけないでください。
墨出し線への合わせ方や注意などは、P13を確認してください。



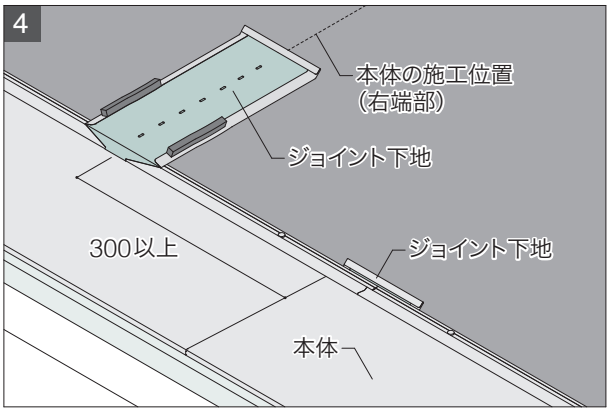
・最初に本体の施工位置を決め、本体の右端部にジョイント下地の中央リブを合わせて、ジョイント下地を配置します。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



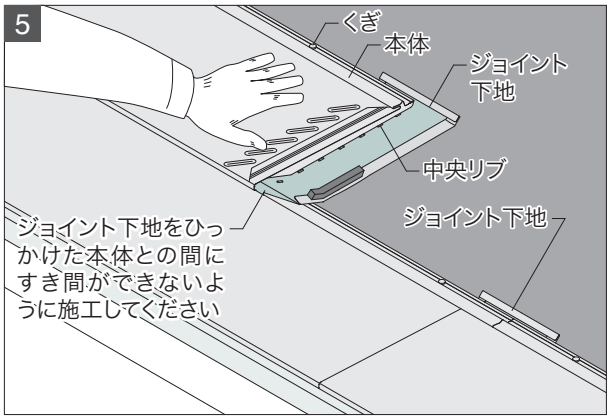
・手で本体を押しながら留め付けてください。



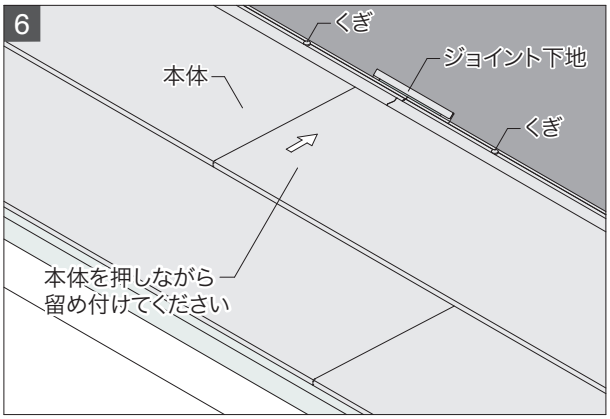
・次の本体も手で押しながら留め付けてください。



・施工順序は、二段目以降も一段目と同じです。本体の横ジョイント部は上下で重ならないように、300㎜以上離して割り付けてください。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



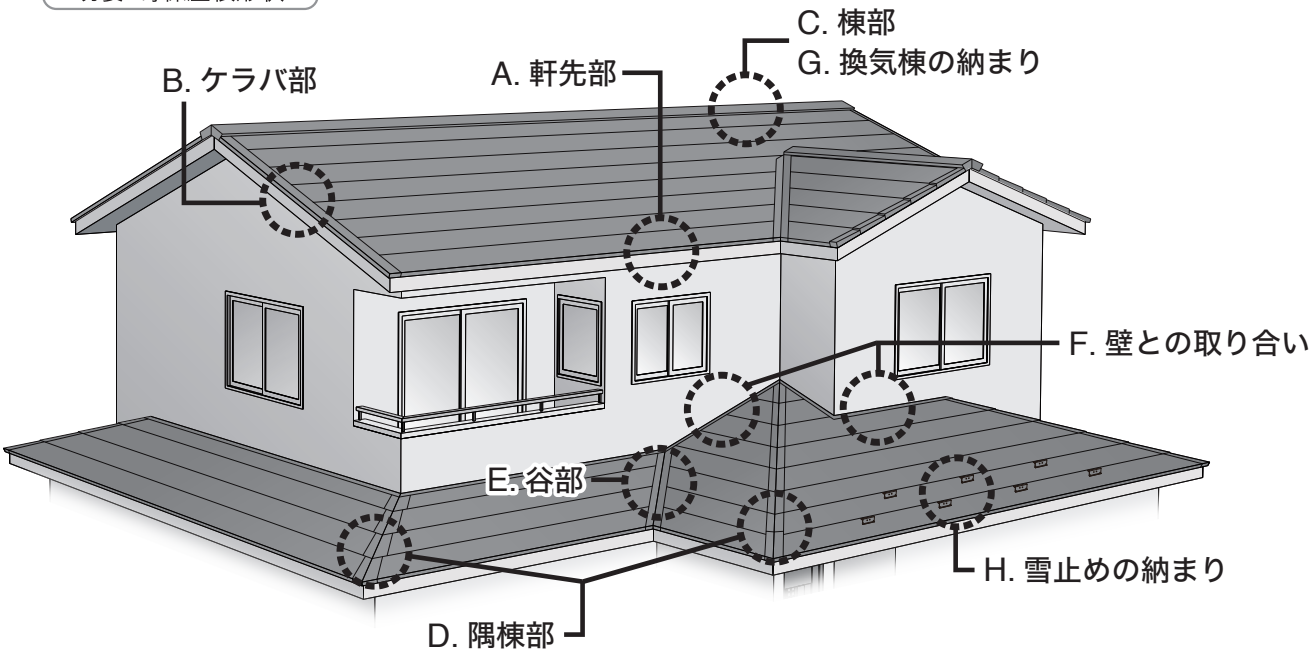
・一段目と同様に、本体をジョイント下地の中央リブに合わせて配置し、手で本体を押しながら本体を留め付けてください。



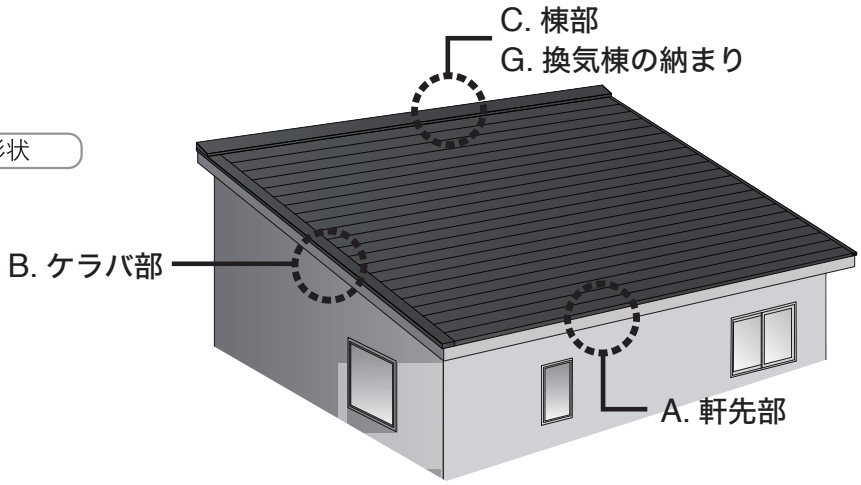
・3と同様に、次の本体も手で押しながら留め付けてください。

8 各部の納まり

切妻・寄棟屋根形状



片流れ屋根形状

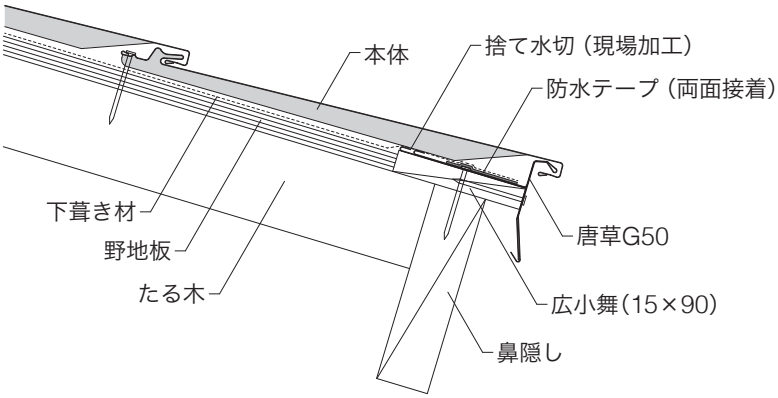


A. 軒先部　・・・・・・・・P16
B. ケラバ部　・・・・・・・P17～
C. 棟部　・・・・・・・・・P21～
D. 隅棟部　・・・・・・・・P24～
E. 谷部　・・・・・・・・・P31～
F. 壁との取り合い部・・・P33～
G. 換気棟の納まり　・・・P37～
H. 雪止めの納まり・・・・P45

単位：㎜

A. 軒先部　A-1. 唐草 G50

納まり図



施工手順

①捨て水切（現場加工）を取り付ける

②唐草G50を取り付ける

・墨出しを行い、その墨に合わせて施工してください。唐草部材の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

③防水テープを貼る

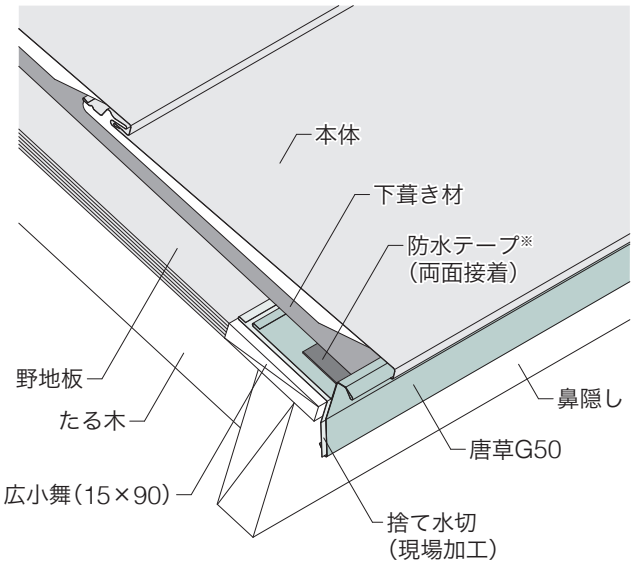
・両面接着のものを使用してください。

※　粘着層付き改質アスファルトルーフィングを使用する場合は不要です。

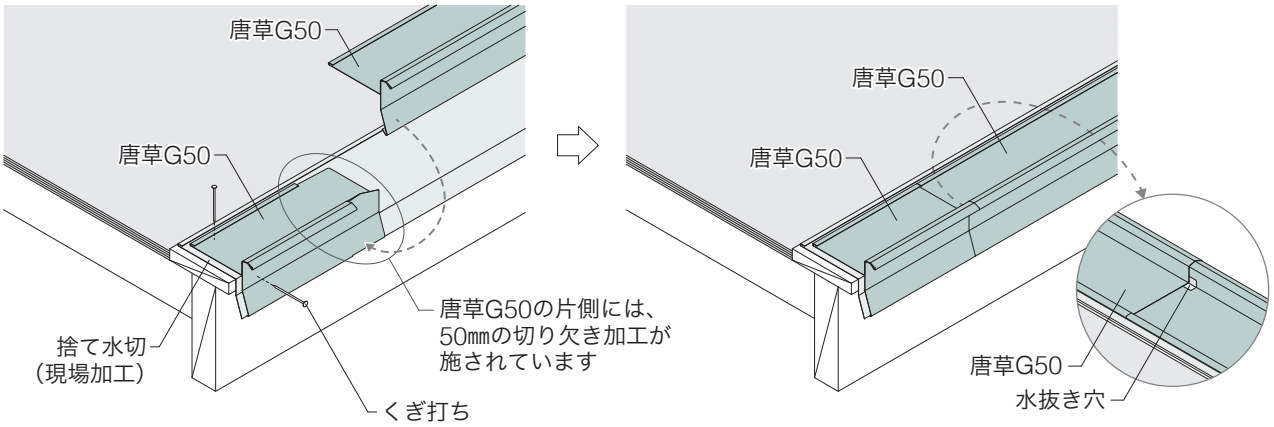
④下葺き材を施工する

⑤本体を取り付ける

・1段目は、唐草G50に引っ掛けて取り付け、くぎ打ちしてください。
・本体の施工方法は、P13を参照してください。



唐草G50のつなぎ方

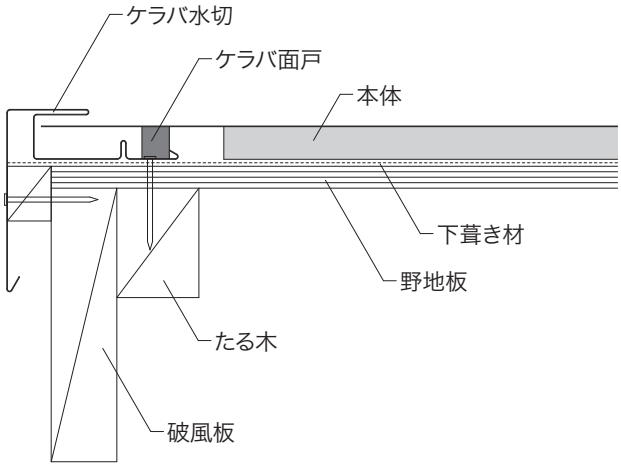


⚠ つなぎ部に水抜き穴ができます。
下葺き材でふさがないよう注意してください。

単位：㎜

B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切

納まり図

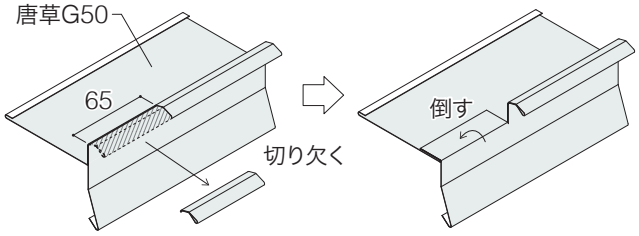


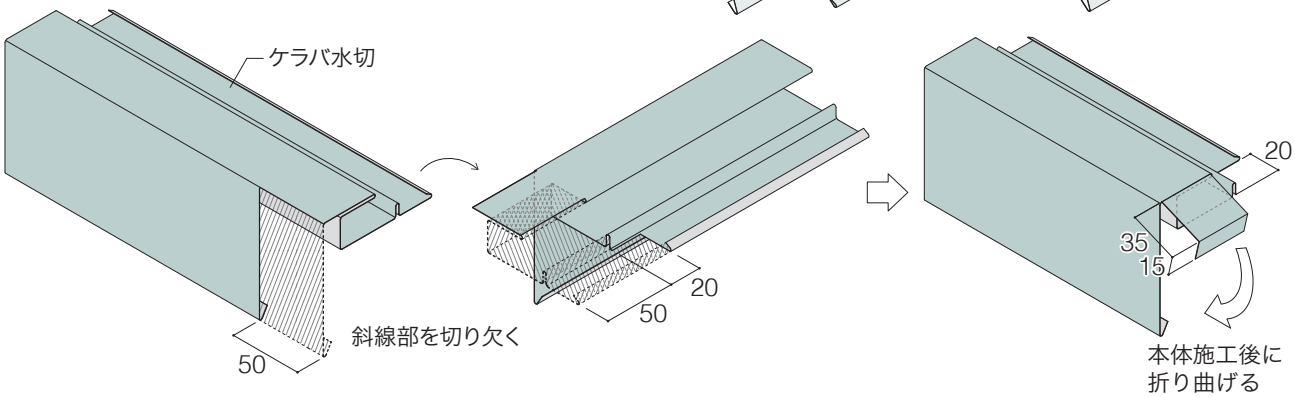
・ケラバ水切を施工する際は、ケラバ面戸を使用してください。

施工手順

①部材を加工する

・唐草G50とケラバ水切の取り合いは、図のように加工してください。
・ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P20を参照してください。
・ケラバ水切の軒先側端部は、本体施工後に折り曲げてください。





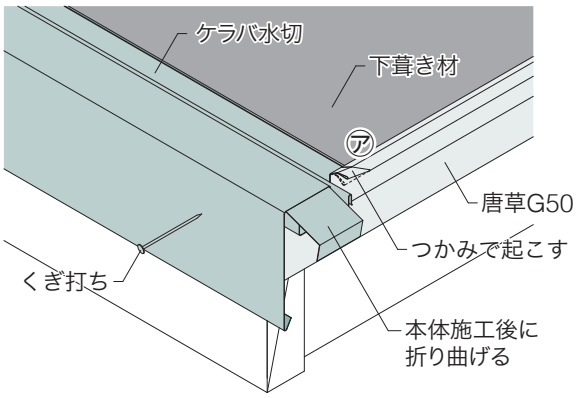
②唐草G50を取り付ける

・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください。(P16参照)

③下葺き材を施工する

④ケラバ水切を取り付ける

・ケラバ水切を取り付けた後に唐草G50の引っ掛け部(右図㋐)をつかみで起こしてください。



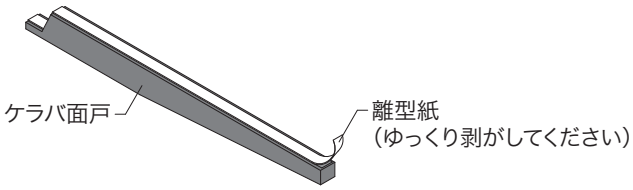
単位：㎜

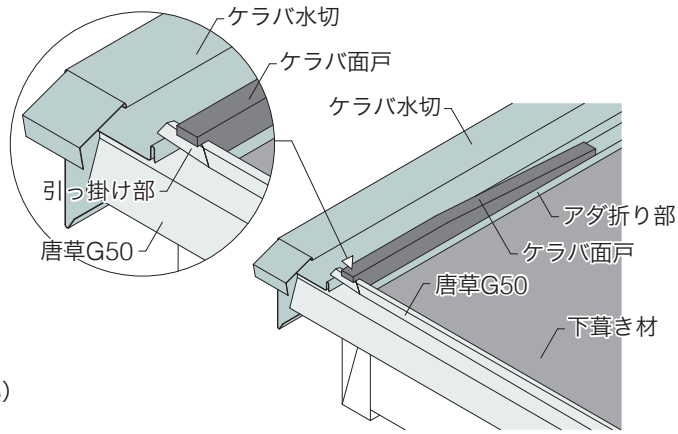
B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切

⑤ケラバ面戸を貼り付ける

・ケラバ面戸は、唐草G50の引っ掛け部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。引っ掛け部にも隙間がないように密着させてください。

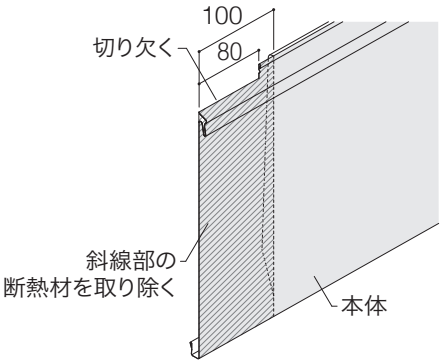
・ケラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。





⑥本体を加工する

・切断部から断熱材を100㎜程度取り除き、くぎ打ち部を80㎜程度切り欠いてください。

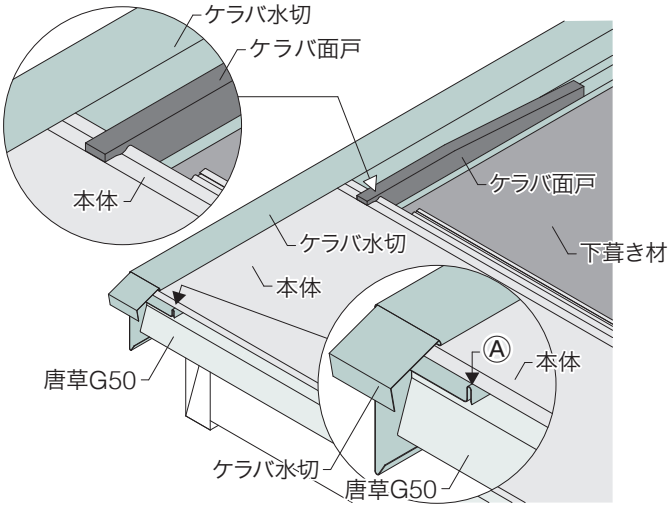


⑦本体を取り付ける

・本体の一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、ケラバ水切のⒶの部分（右図参照）に必ずのせてください。

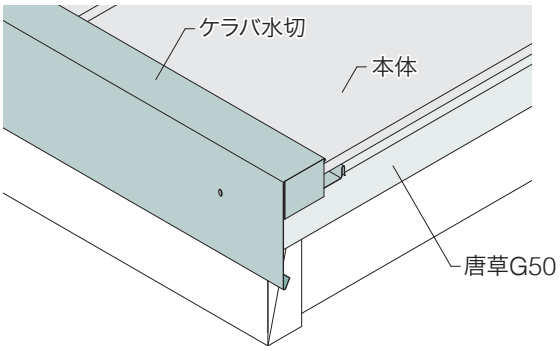
・ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体のかん合部にも隙間がないように密着させてください。

・二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。



⑧ケラバ水切の軒先側端部を折り曲げる

・ケラバ水切エンドを併用すると軒先の加工が不要になり、施工性が向上します（P19参照）。



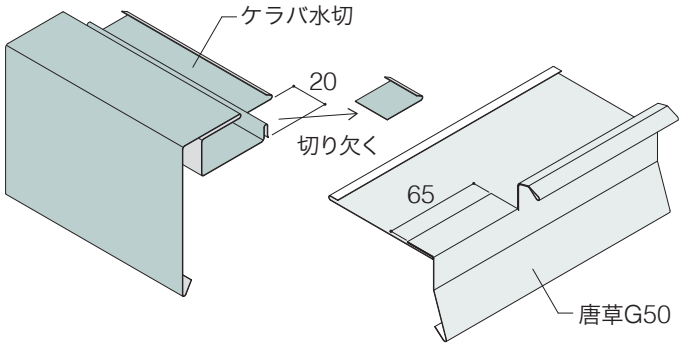
単位：㎜

B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●ケラバ水切エンドの取り付け方

施工手順

①部材を加工する

・唐草G50とケラバ水切の取り合いは、右図のように加工してください。



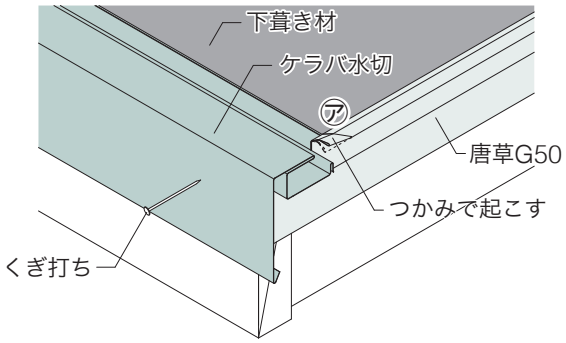
②唐草G50を取り付ける

・下葺き材を重ねる部分には、防水テープを貼ってください。(P16参照)

③下葺き材を施工する

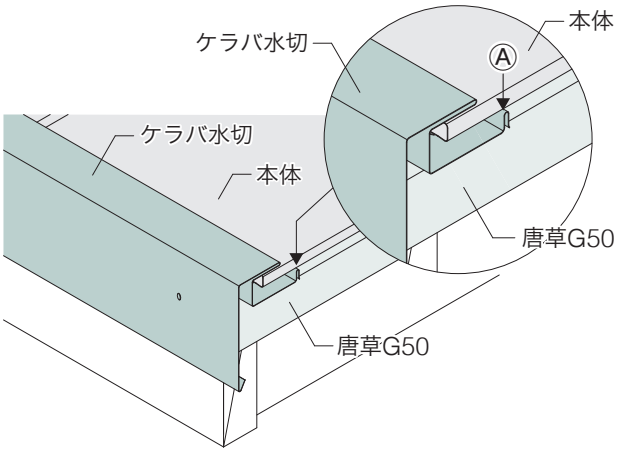
④ケラバ水切を取り付ける

・ケラバ水切を取り付けた後に唐草G50の引っ掛け部(右図㋐)をつかみで起こしてください。



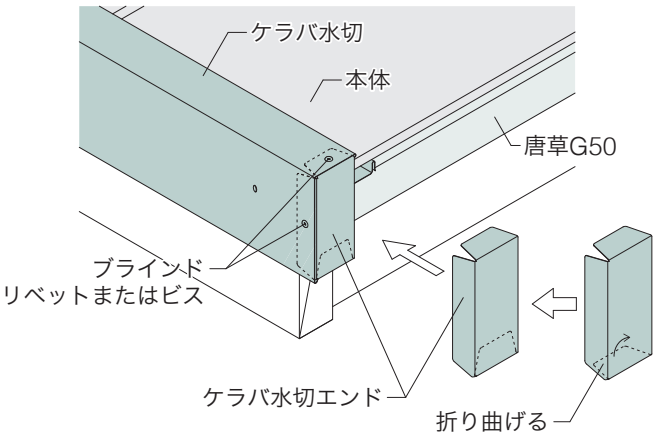
⑤本体を加工し、取り付ける

・1段ごとにケラバ面戸を貼り付けてから本体を取り付けてください。
・本体の加工方法やケラバ面戸の貼り付け方については、P18を参照してください。
・本体の一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、ケラバ水切のⒶの部分(右図参照)に必ずのせてください。



⑥ケラバ水切エンドを取り付ける

・ケラバ水切エンドの下部を、ケラバ水切の方向に合わせて折り曲げてください。
・ケラバ水切エンドをケラバ水切に差し込み、ブラインドリベットまたはビスで2ヵ所留め付けてください。
・ブラインドリベットまたはビスはタッチアップペイントで補修してください。

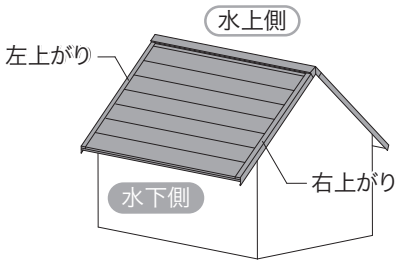


単位：㎜

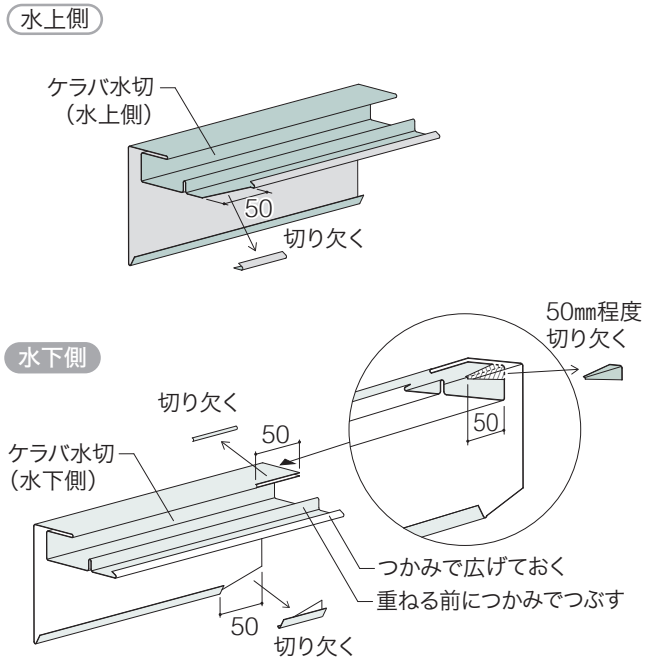
B. ケラバ部　B-1. ケラバ水切　●ケラバ水切のつなぎ方

ケラバ水切のつなぎ方

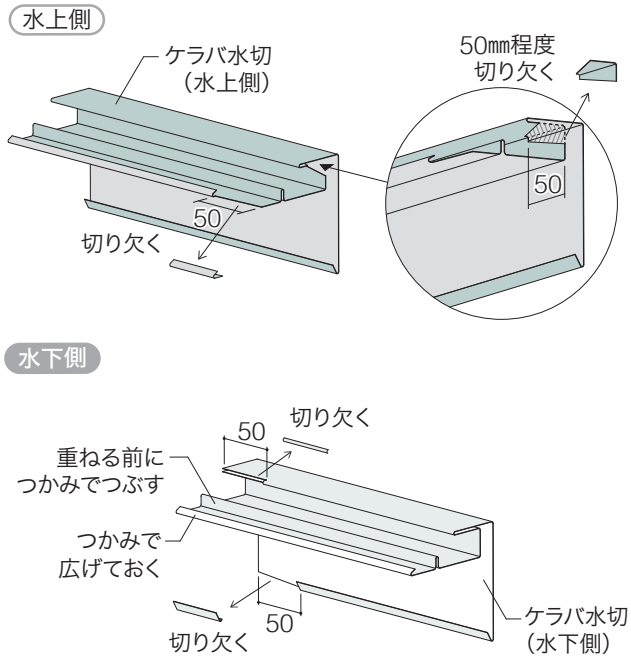
・ケラバ水切同士をつなぐ際は、50㎜程度の切り欠き加工をしてください。
・施工する方向により切り欠き加工が異なりますので、注意してください。



左上がりの加工

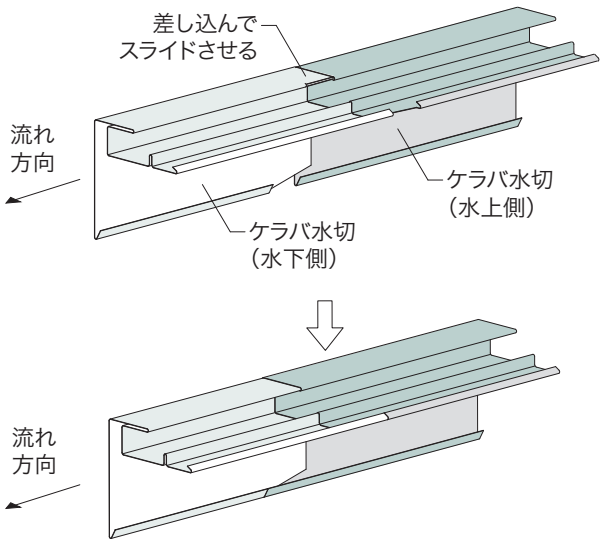


右上がりの加工



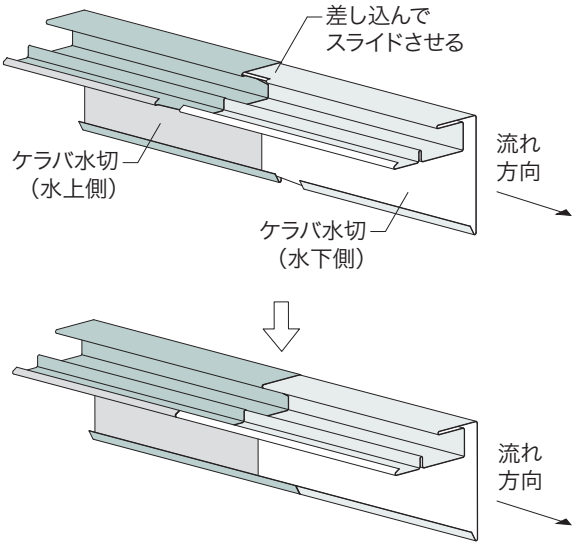
左上がりのつなぎ方

水下側のケラバ水切を下に施工してください。



右上がりのつなぎ方

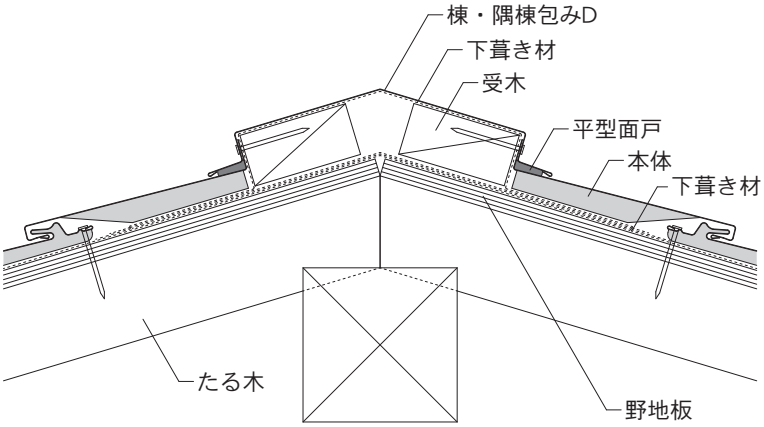
水下側のケラバ水切を下に施工してください。



単位：㎜

C. 棟部　C-1. 棟・隅棟包み D

納まり図



・棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。

【受木について】
・屋根の勾配に合わせ、高さ36～45㎜、幅60～80㎜で選定してください。
・幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
・隅棟にC型捨板を使用する場合は、受木のサイズを合わせてください。

施工手順

●端部の納め方 (1)　棟・隅棟包み D を加工して納める場合

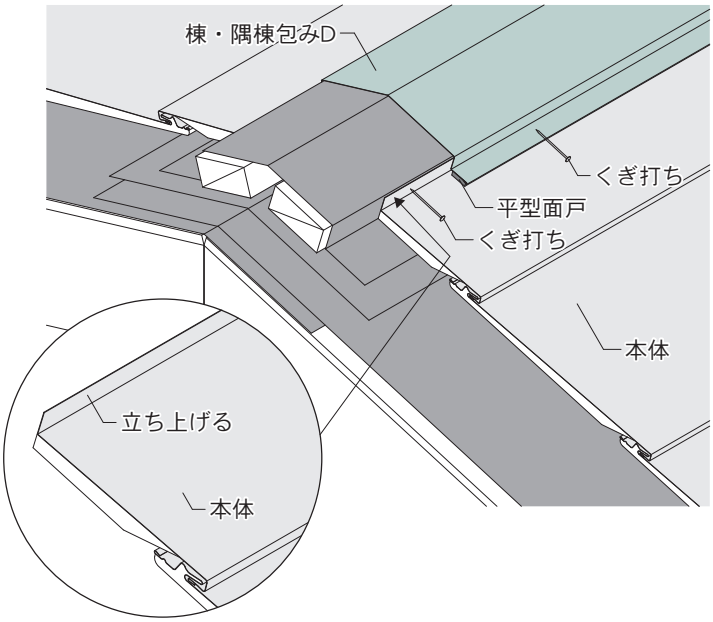
①本体を加工し、取り付ける

・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。

②平型面戸を貼り付ける

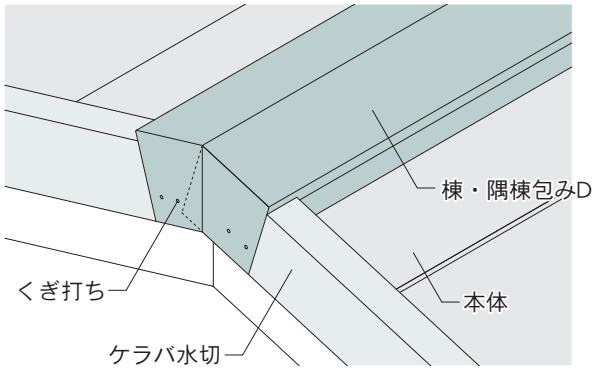
③棟・隅棟包みDを取り付ける

・受木の勾配に合わせて棟・隅棟包みDを取り付け、くぎ打ちしてください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。



④棟・隅棟包みDのケラバ側を加工する

・棟・隅棟包みDを右図のように加工して納め、くぎ打ちしてください。
・棟巴を併用すると加工が不要になり、施工性が向上します。（P22参照）



単位：㎜

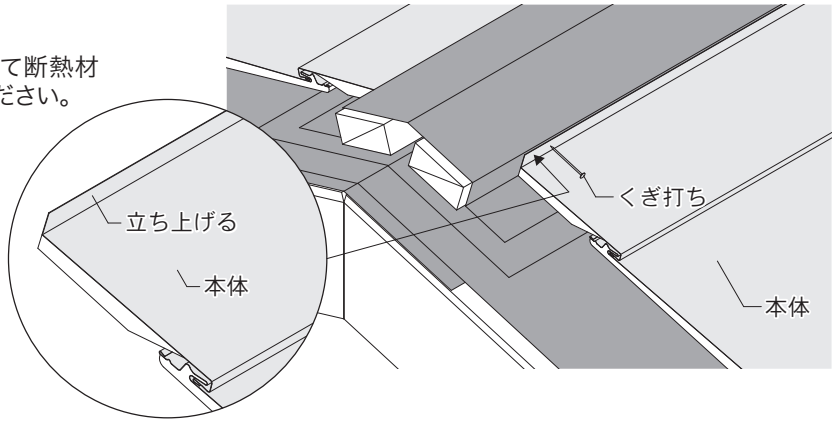
C. 棟部　C-1. 棟・隅棟包み D

●端部の納め方 (2)　棟巴を併用する場合

「スーパーガルテクト」、「スーパーガルテクトＣ」のみの仕様です

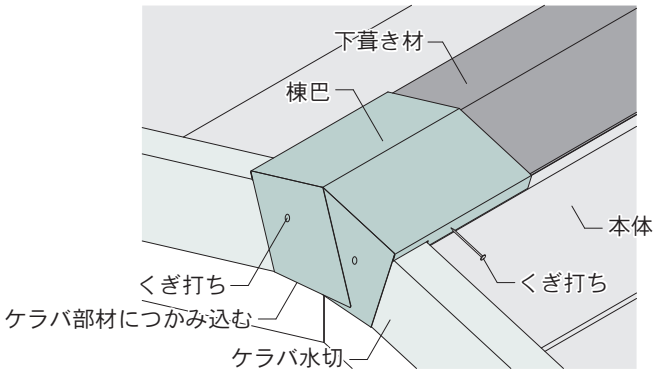
①本体を加工し、取り付ける

・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。



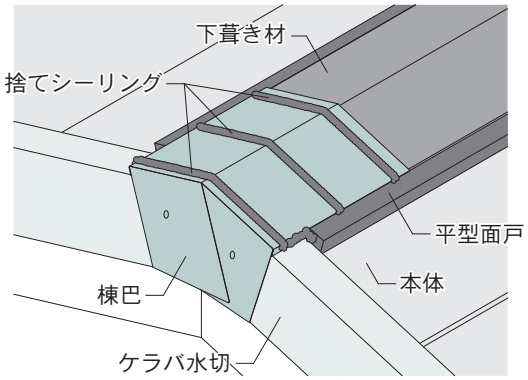
②棟巴を加工し、取り付ける

・ケラバ部材の幅や勾配に合わせて切り欠いてください。
・棟巴を取り付けた後、ケラバ部材につかみ込んでください。



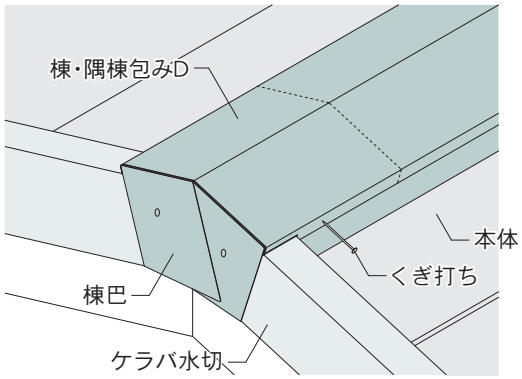
③平型面戸を貼り付け、捨てシーリングを施工する

・棟巴と棟・隅棟包みDが重なる部分に捨てシーリングを施工してください。



④棟・隅棟包みDを加工し、取り付ける

・棟・隅棟包みDを施工し、くぎ打ちしてください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。

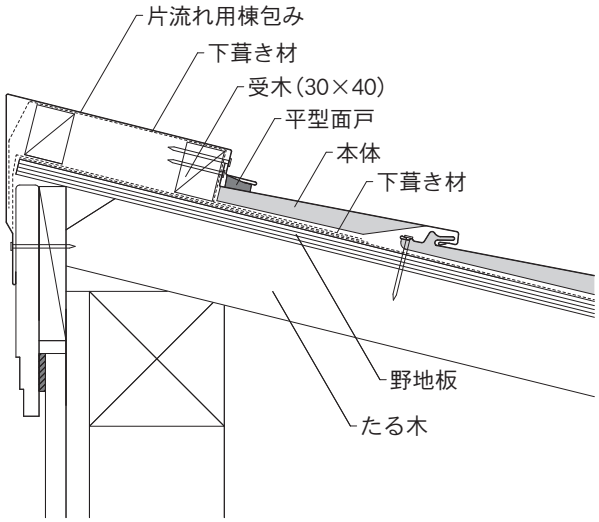


単位：㎜

C. 棟部　C-2. 片流れ用棟包み

納まり図

2.5寸～6寸勾配に対応



施工手順

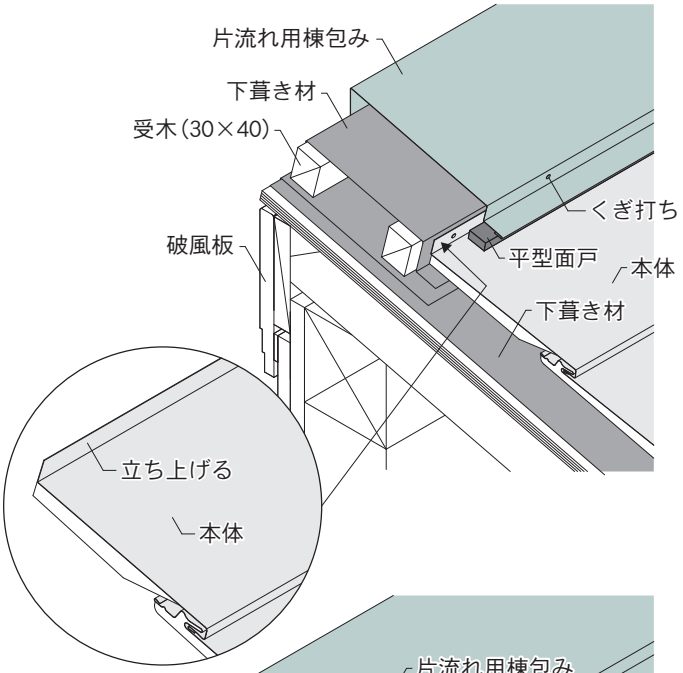
①本体を加工し、取り付ける

・本体を切断後、受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、表面鋼板を立ち上げてください。

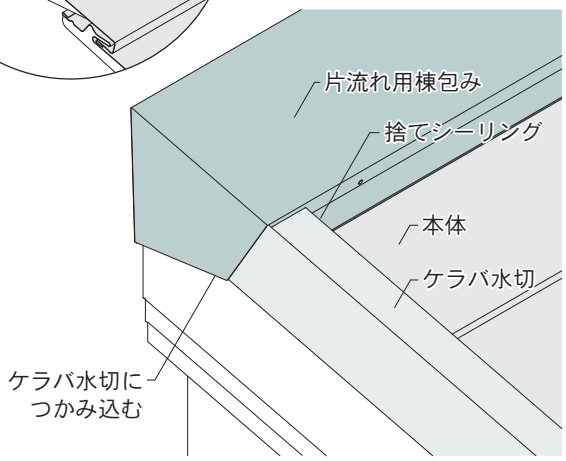
②平型面戸を貼り付ける

③片流れ用棟包みを取り付ける

・受木の勾配に合わせて片流れ用棟包みを取り付け、くぎ打ちしてください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。



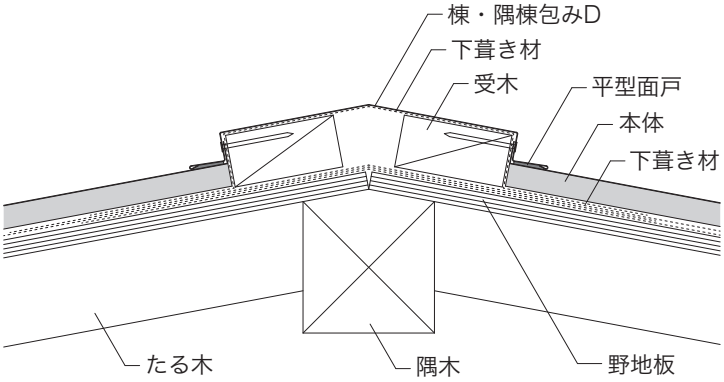
・片流れ用棟包みの端部は、右図のように加工し、ケラバ部材につかみ込んでください。
・片流れ用棟包みを取り付ける際に、本体、ケラバ部材との取り合い部に捨てシーリングを施工してください。



単位：㎜

D. 隅棟部　D-1. 棟・隅棟包み D＋剣先

納まり図



・棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。

【受木について】
・屋根の勾配に合わせ、高さ36～45㎜、幅60～80㎜で選定してください。
・幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

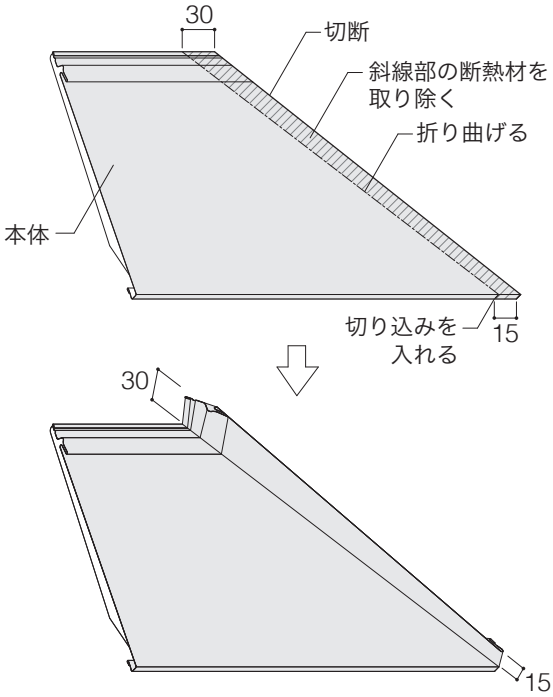
施工手順

①本体を加工する

・勾配に合わせて本体を曲げる位置を決め、切断してください。

・カッターとスクレーパーを使用し、右図の斜線部の断熱材を取り除いてください。

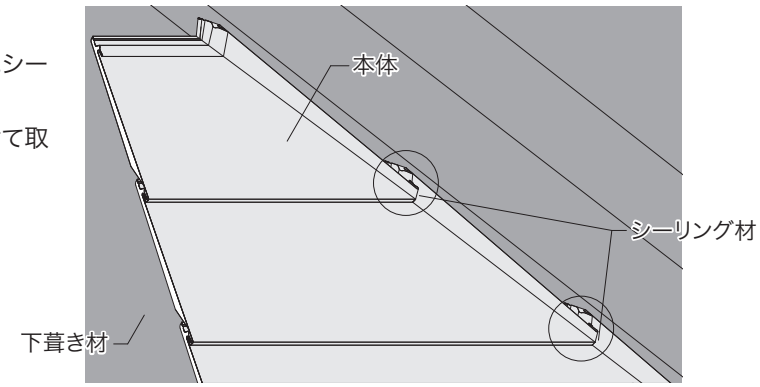
・右図のようにかん合部に切り込みを入れ、立ち上げてください。



②本体を取り付ける

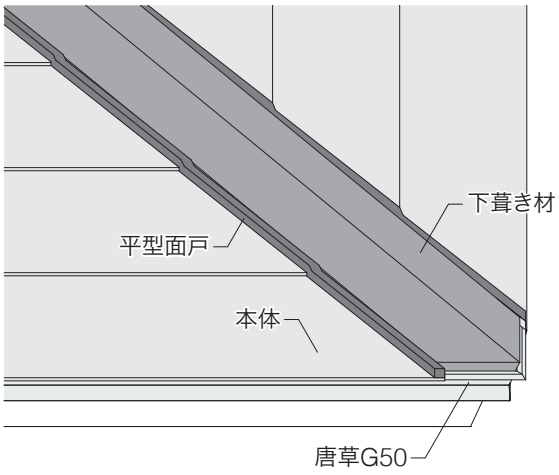
・切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。

・本体の1段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて取り付けてください。



単位：㎜

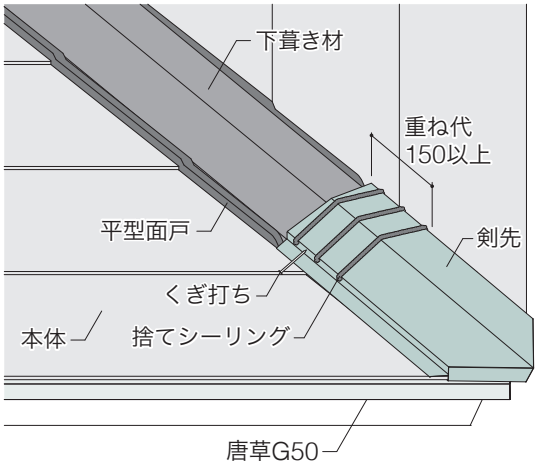
D. 隅棟部　D-1. 棟・隅棟包み D＋剣先

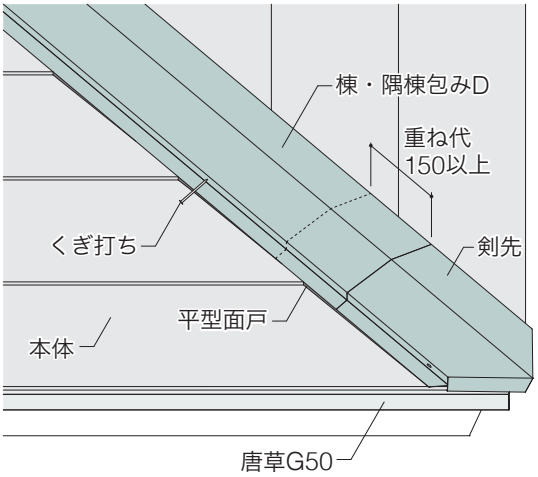


④剣先と棟・隅棟包みDを取り付ける

・剣先を施工してから、棟・隅棟包みDを上から重ねてください。
・平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
・剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。

「剣先」は、2.5寸～4.5寸勾配に対応しています

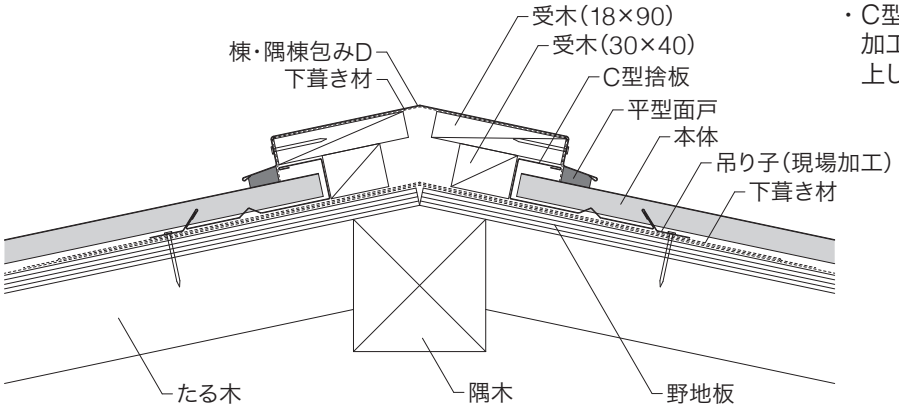




単位：㎜

D. 隅棟部　D-2. 棟・隅棟包み D＋C 型捨板＋剣先

納まり図

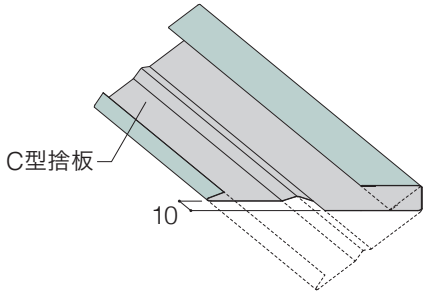


・C型捨板を施工することで、本体の立ち上げ加工を省くことができ、施工性と止水性が向上します。

施工手順

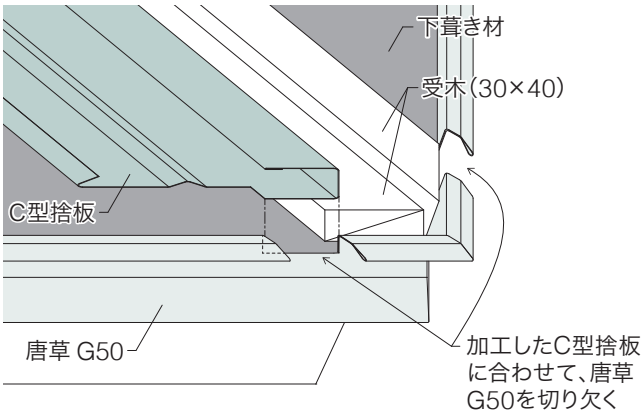
①C型捨板の加工

・勾配に合わせてC型捨板を切断し、右図のように10㎜程度切り欠いてください。



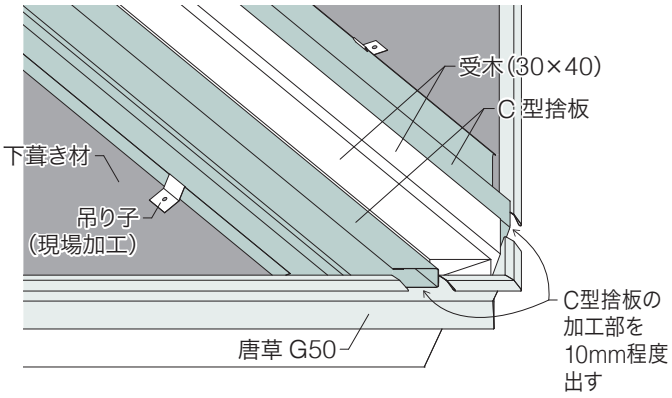
②唐草G50を切り欠く

・C型捨板の切り欠き部分に合わせて、唐草G50を切り欠いてください。



③C型捨板を取り付ける

・唐草G50の切り欠いた部分に合わせ、C型捨板の加工部が唐草G50から10㎜程度出るように取り付けてください。
・C型捨板は、吊り子（現場加工）を使用し留め付けてください。

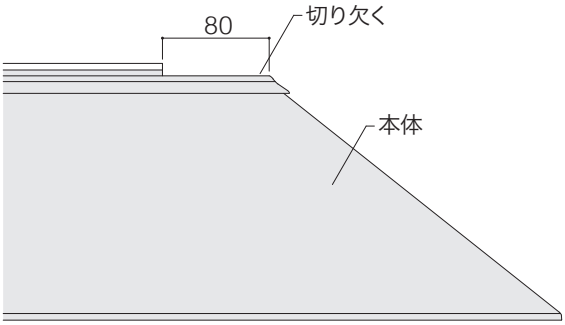


単位：㎜

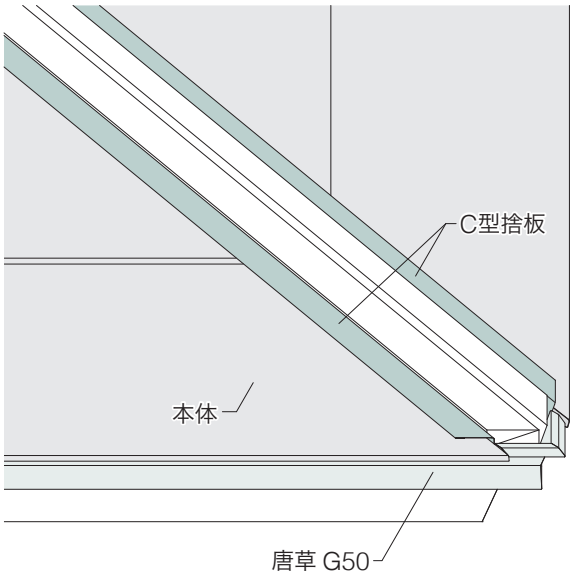
D. 隅棟部　D-2. 棟・隅棟包み D＋C 型捨板＋剣先

④本体を加工して取り付ける

・勾配に合わせて切断し、くぎ打ち部を80㎜程度切り欠いてください。

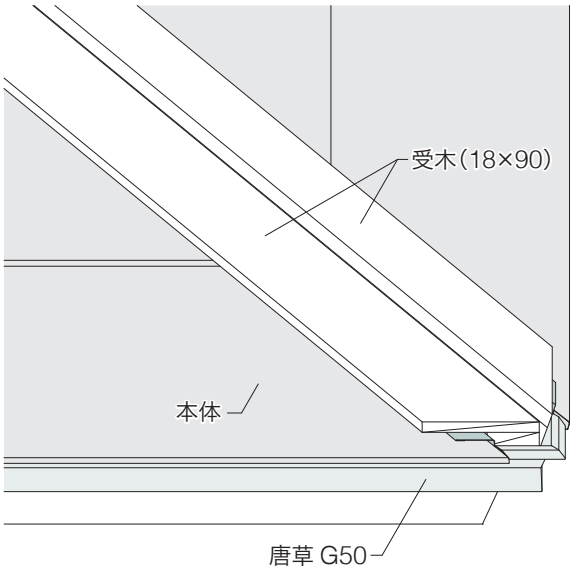


・C型捨板に差し込んで施工してください。
・本体の１段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて取り付けてください。

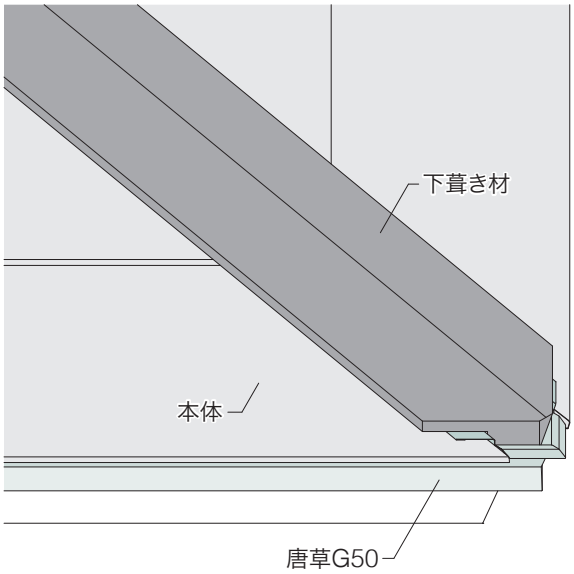


⑤受木を取り付ける

・本体を施工した後、受木（18×90）を軒先に合わせて施工してください。



⑥受木に下葺き材を施工する



単位：㎜

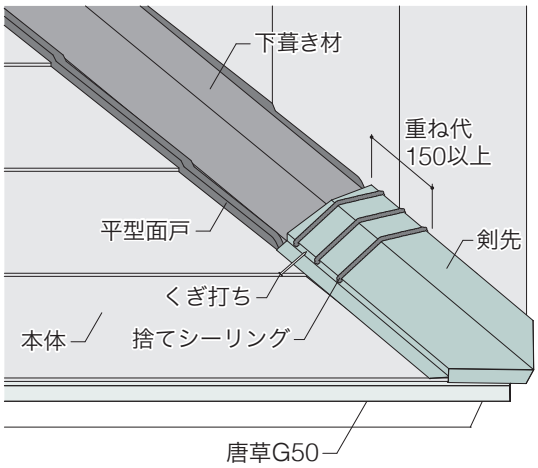
D. 隅棟部　D-2. 棟・隅棟包み D＋C 型捨板＋剣先

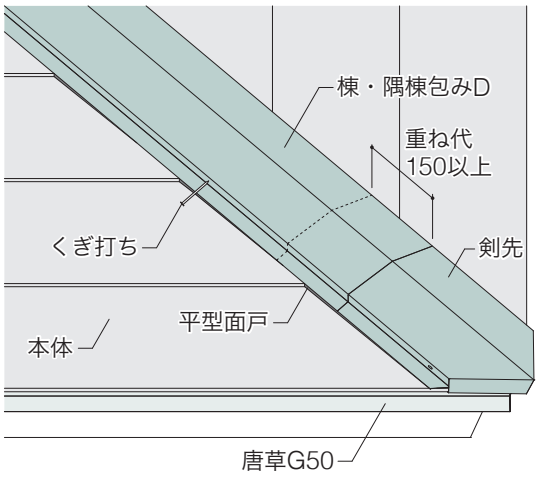
⑦平型面戸を本体に貼り付ける

⑧剣先と棟・隅棟包みDを取り付ける

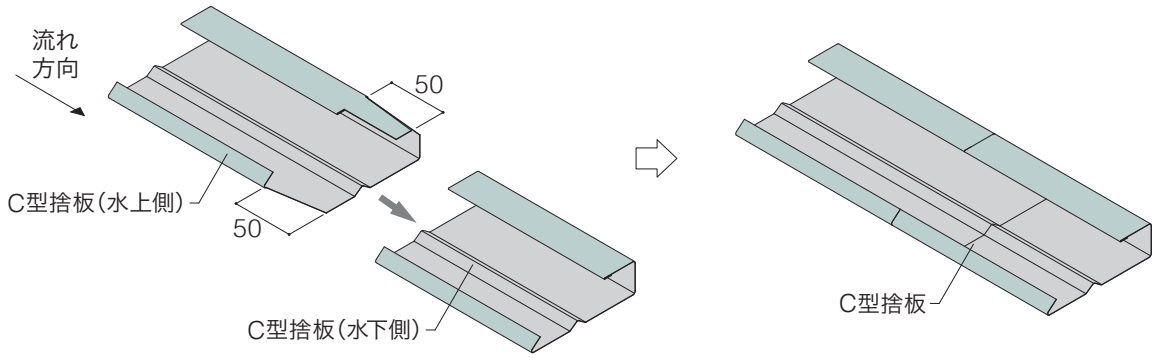
・剣先を施工してから、棟・隅棟包みDを上から重ねてください。
・平型面戸が潰れるように押し付け、くぎ打ちしてください。
・剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150㎜以上とり、捨てシーリングを施工して重ねてください。

「剣先」は、2.5寸～4.5寸勾配に対応しています





C型捨板のつなぎ方

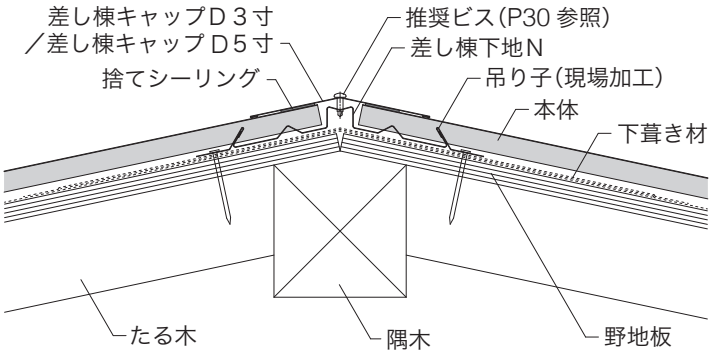


単位：㎜

D. 隅棟部　D-3. 差し棟キャップＤ３寸／差し棟キャップＤ５寸

納まり図

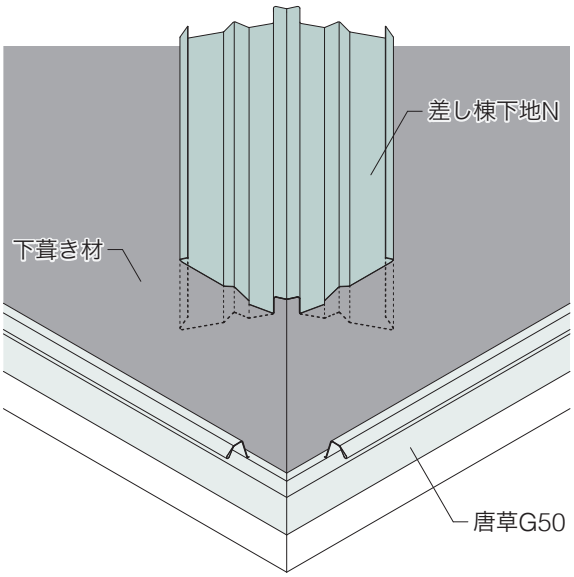
差し棟キャップD３寸:2.5寸～4.5寸勾配に対応
差し棟キャップD５寸:5寸～6寸勾配に対応



施工手順

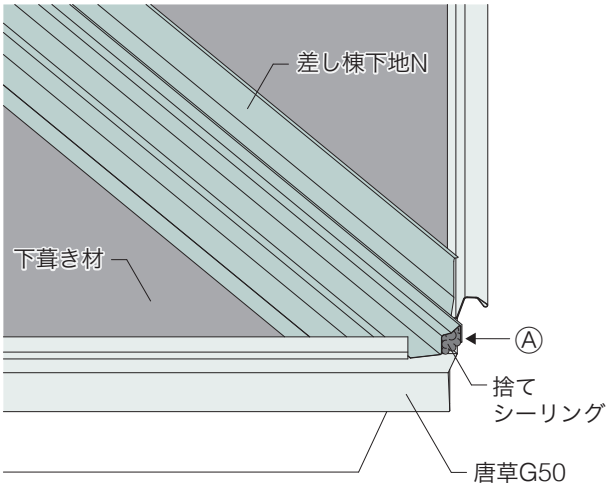
①唐草G50と差し棟下地Nを加工して取り付ける

・右図のように、唐草G50と差し棟下地Nを切り欠いてください。
・差し棟下地Nの切り欠きは、差し棟キャップからはみ出さないように現場で合わせて切り欠いてください。
・差し棟下地Nは、吊り子(現場加工)を使用し留め付けてください。



②捨てシーリングを施工する

・吹き上げによる雨水の浸入を防止するため、Ⓐの部分(右図参照)に捨てシーリングを施工してください。

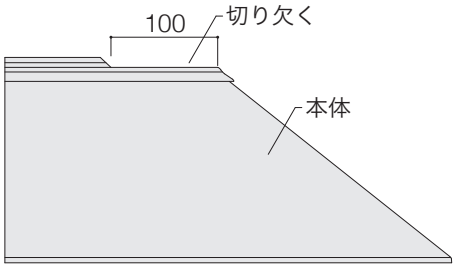


単位：㎜

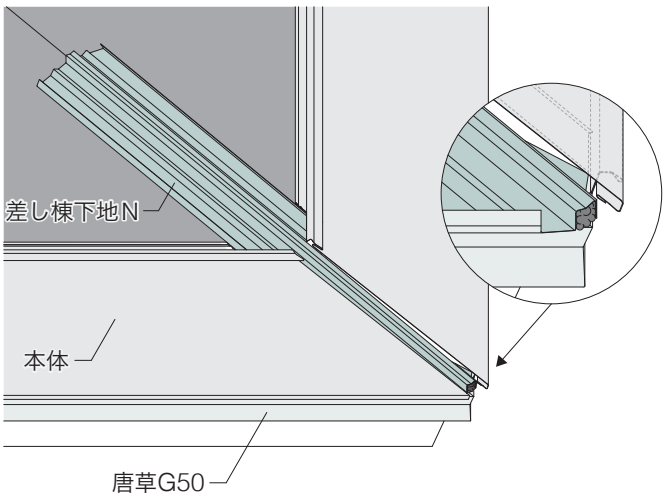
D. 隅棟部　D-3. 差し棟キャップＤ３寸／差し棟キャップＤ５寸

③本体を加工し、取り付ける

・勾配に合わせて本体を切断し、くぎ打ち部を100mm程度切り欠いてください。



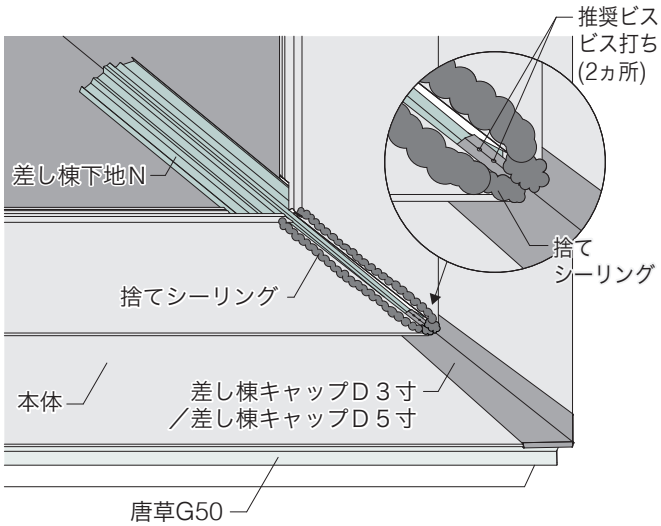
・本体の１段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて取り付けてください。



④差し棟キャップを取り付ける

・右図のように、捨てシーリングを施工してください。
・差し棟キャップは、本体の通りを合わせて取り付けてください。
・差し棟キャップを推奨ビスで差し棟下地Nに留め付けてください。ビス頭には、捨てシーリングを施工してください。

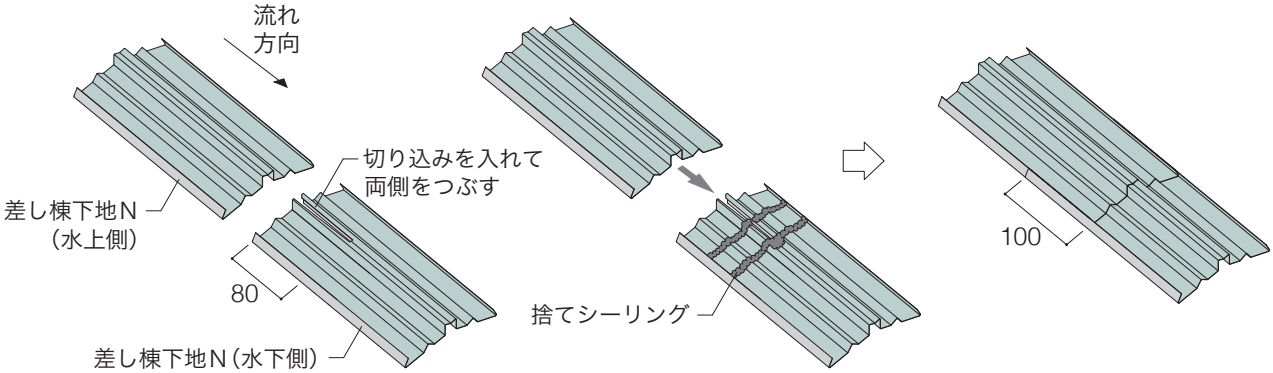
⚠ ビスの締めすぎ、空回りには十分に注意してください。



推奨ビス

メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング㈱	MBシートテクス　4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
㈱ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス（シンワッシャー）	4×12
	ジャックポイント（ミニジャック）	トラス（シンワッシャー）	4×13
若井産業㈱	ダンバゼロ	シンワッシャー	4×14

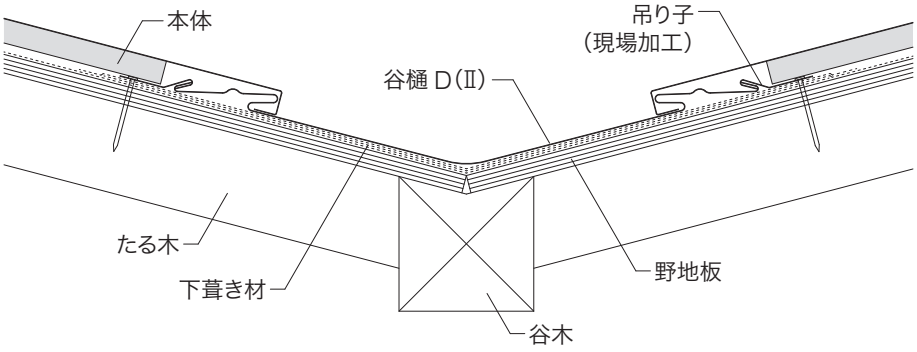
差し棟下地Nのつなぎ方



単位：㎜

E. 谷部　E-1. 谷樋D(Ⅱ)

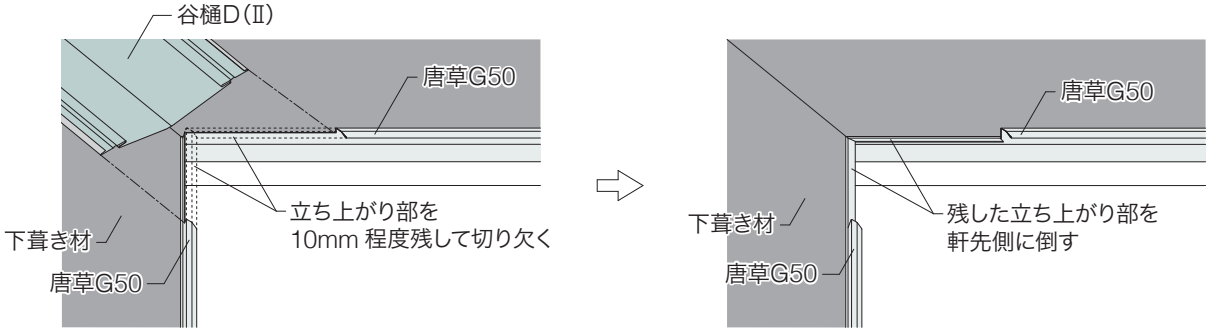
納まり図



施工手順

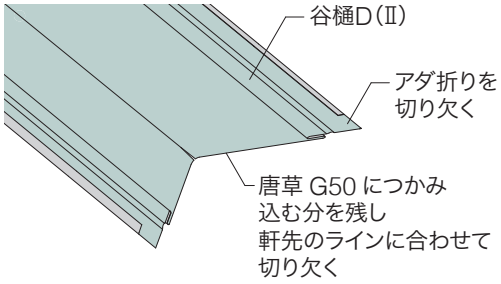
①唐草G50を加工する

・唐草G50は、谷樋D(Ⅱ)の幅に合わせ、立ち上がり部分を10mm程度残して切り欠いてください。残した立ち上がり部分は、手前側に倒してください。

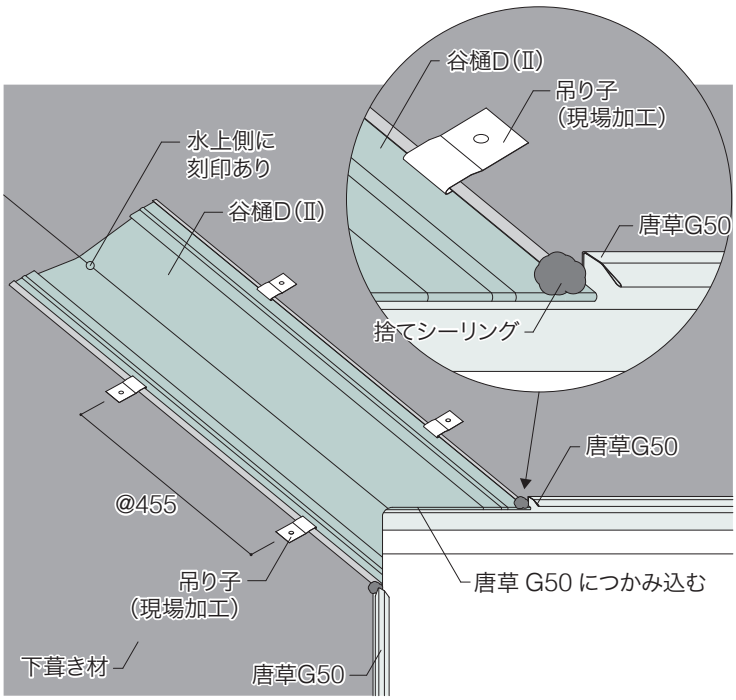


②谷樋D(Ⅱ)を加工して取り付ける

・谷樋D(Ⅱ)は、軒先のラインに合わせて加工し、唐草G50に沿うようにつかみ込んでください。



・谷樋D(Ⅱ)は、吊り子(現場加工)を使用し、455㎜の間隔で固定してください。
・唐草G50と谷樋D(Ⅱ)の取り合いには、本体を施工する前に捨てシーリングを施工してください。

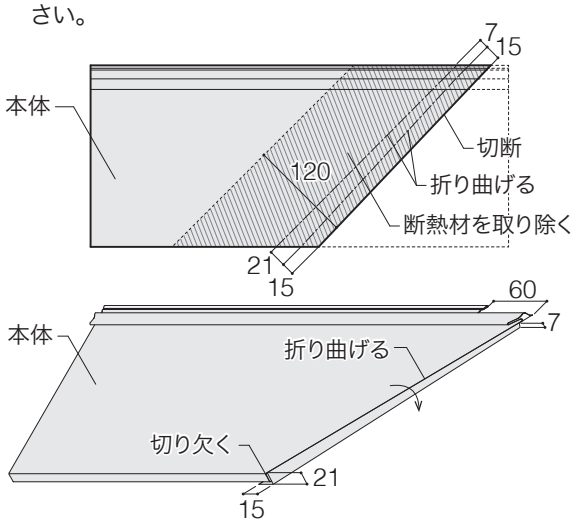


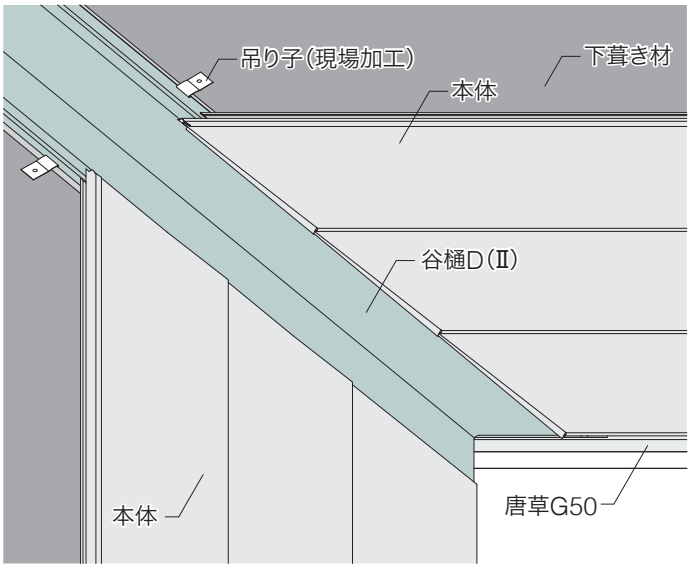
単位：㎜

E. 谷部　E-1. 谷樋D(Ⅱ)

③本体を加工して取り付ける

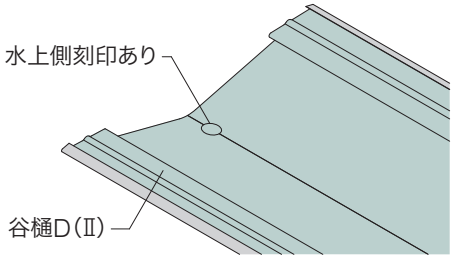
・勾配に合わせて本体を切断してください。
・断熱材は、切断部から120㎜程度取り除いてください。
・くぎ打ち部を60㎜程度切断してください。
・かん合部を切り欠き、折り曲げてください。
・本体は、谷樋D(Ⅱ)のハゼに引っかけて施工してください。



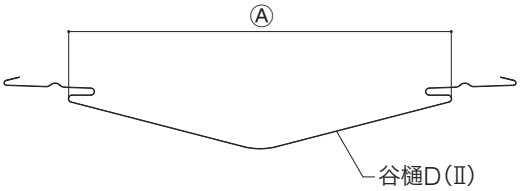


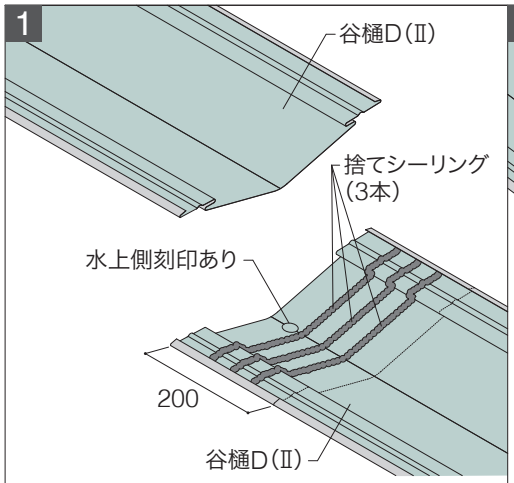
谷樋D(Ⅱ)同士のつなぎ方

・谷樋D(Ⅱ)は、刻印がある方を水上側にして施工してください。

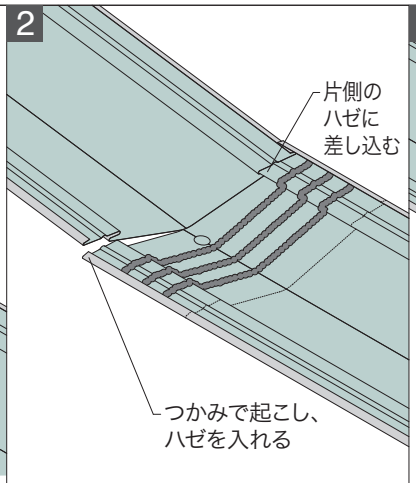


・谷樋D(Ⅱ)同士をつなぐ際は、必ず刻印がある箇所を下にしてつないでください。刻印がある方は、Ⓐの部分が広がっており、つなぎやすくなっています。

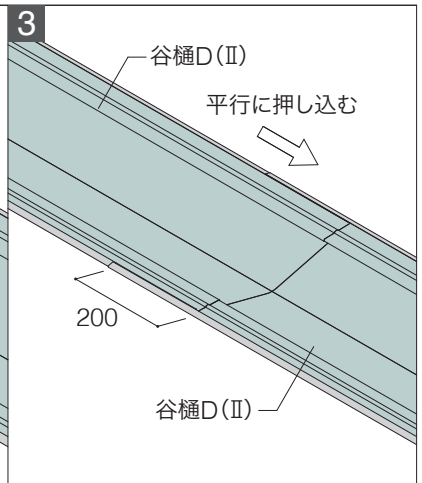




谷樋D(Ⅱ)は、刻印がある方に、φ8㎜程度(鉛筆の太さ程度)の捨てシーリングを3本施工してください。



片側のハゼを入れてから、もう片方のハゼを入れます。

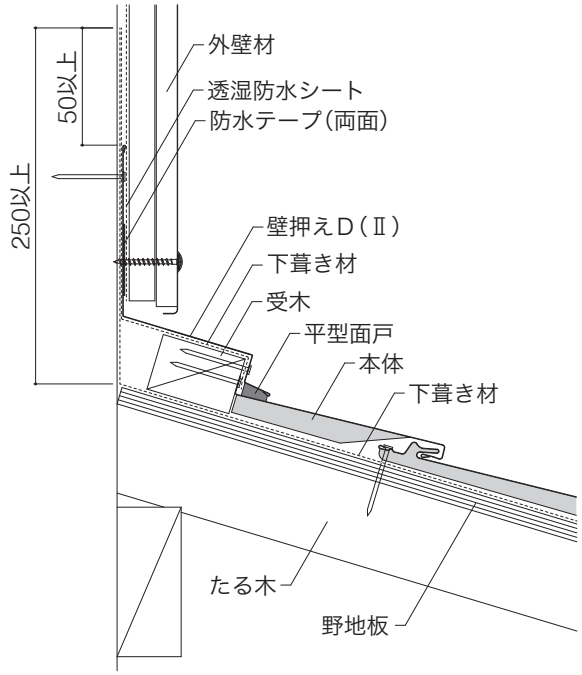


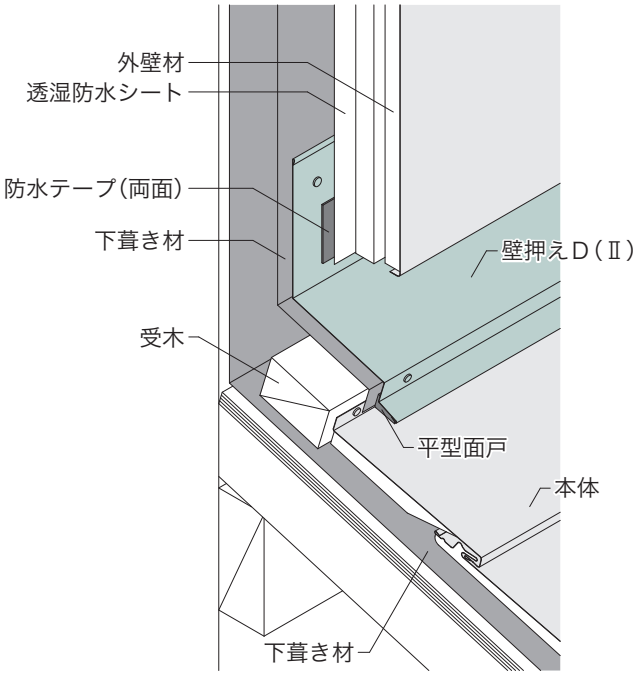
はみ出した捨てシーリングは、除去してください。

単位：㎜

F．壁との取り合い部　F-1.壁押えD(Ⅱ)+L型捨板

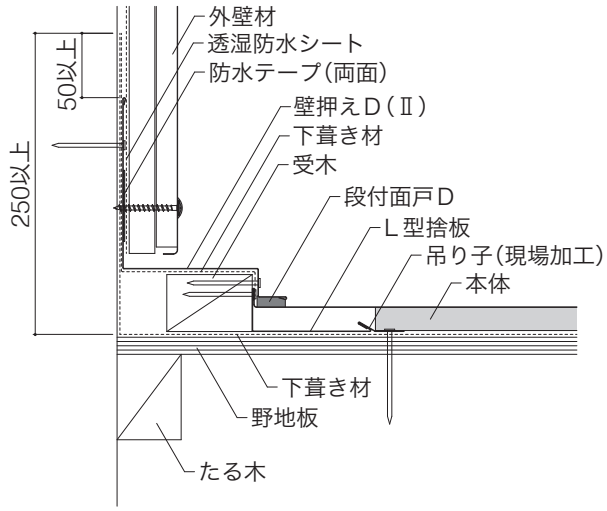
〈流れと垂直な壁との納まり〉

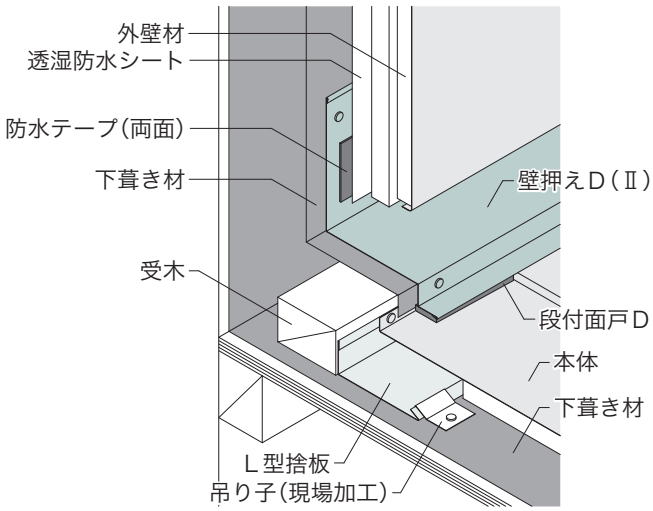




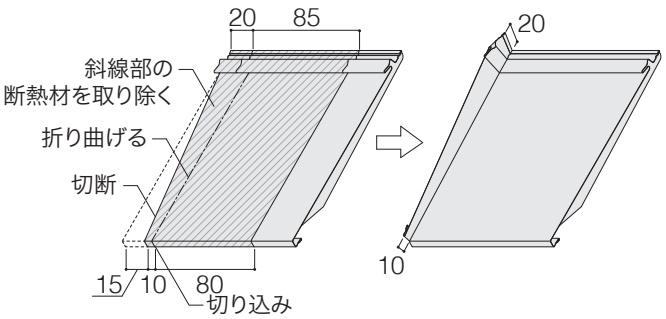
・壁押えD(Ⅱ)内に納める本体の端部は、受木の位置に合わせて切断し、立ち上げてください。
・本体立ち上げ部の受木の高さは、立ち上げの高さにあわせて調整してください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように施工してください。

〈流れと平行な壁との納まり〉





・受木の高さは36～45㎜とし、幅は60～80㎜を選定してください。幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
・L型捨板は吊り子(現場加工)を使用して留め付けてください。
・本体の端部は、断熱材を取り除き、立ち上げてください(右図参照)。
・切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。
・段付面戸Dは、壁押えD(Ⅱ)と本体の間に入れてください。

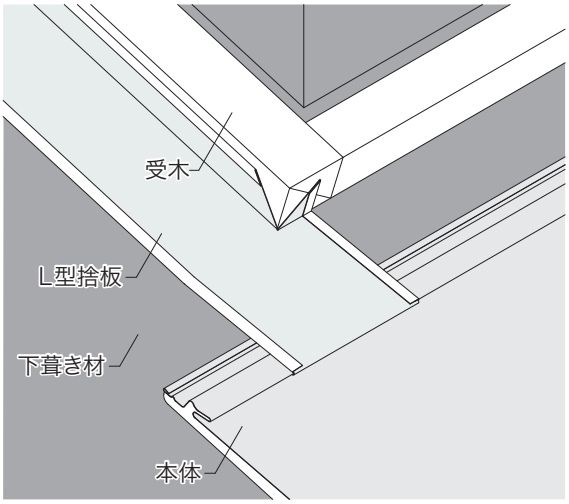


単位：㎜

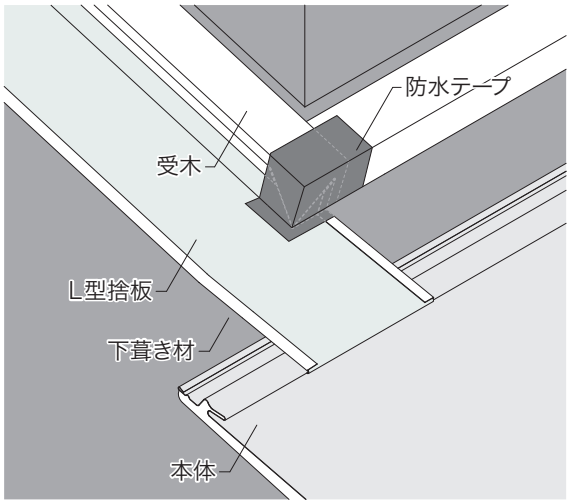
F．壁との取り合い部　F-1.壁押えD(Ⅱ)＋L型捨板

〈コーナー部分の壁との納まり〉

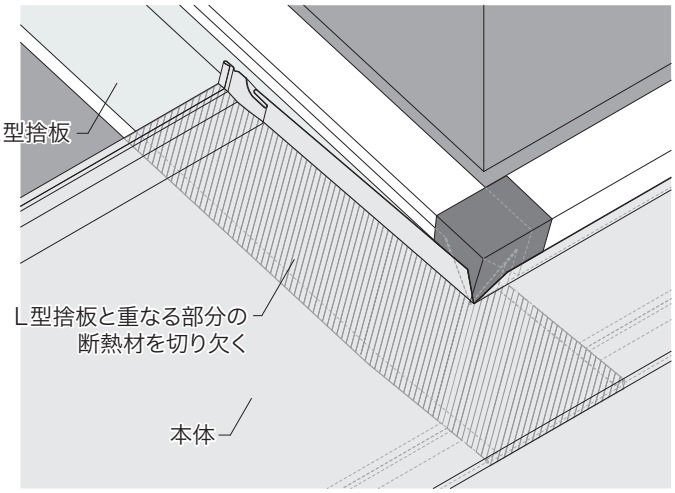
1
・L型捨板を受木の位置に合わせて加工し、下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。



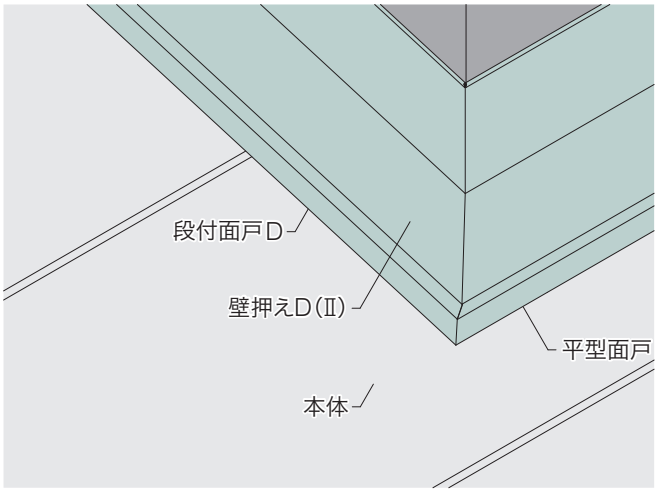
2
・コーナー部には、防水テープを施工してください。



3
・コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、L型捨板の幅に合わせて断熱材(右図斜線部分)を取り除いてください。
・本体の端部を立ち上げて施工してください。



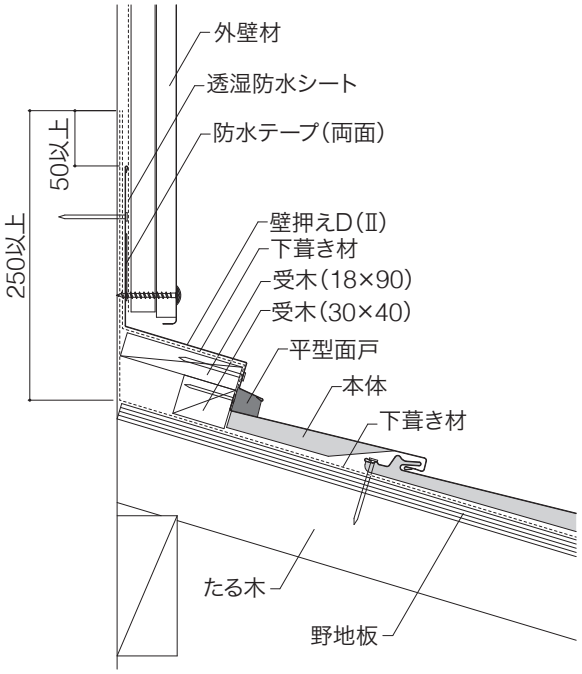
4
・受木に下葺き材を施工してください。
・段付面戸D、平型面戸を本体に貼り付けてから、壁押えD(Ⅱ)を施工してください。

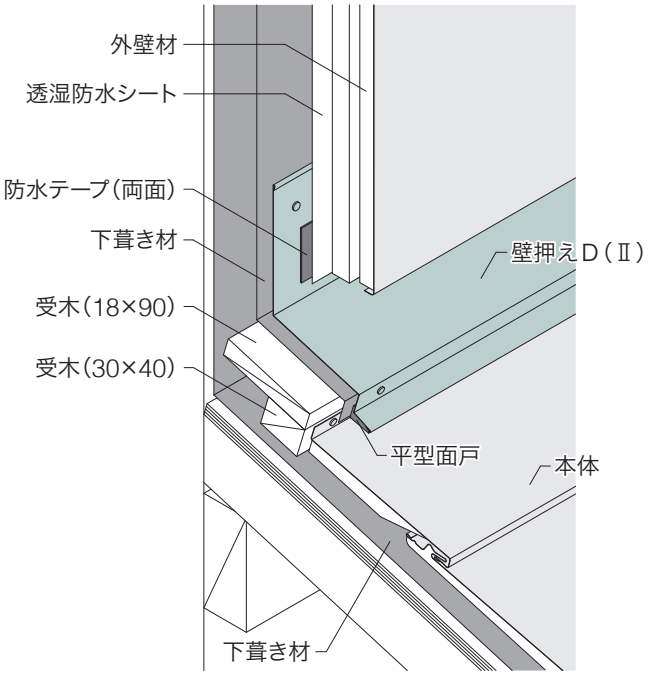


単位：㎜

F．壁との取り合い部　F-2.壁押えD(Ⅱ)＋C型捨板

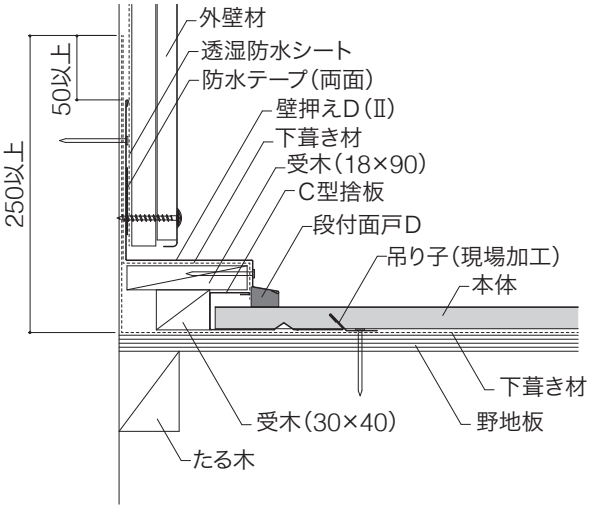
〈流れと垂直な壁との納まり〉

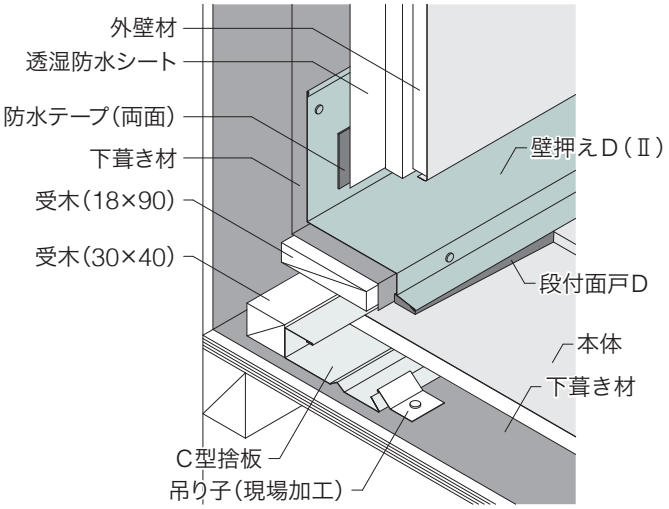




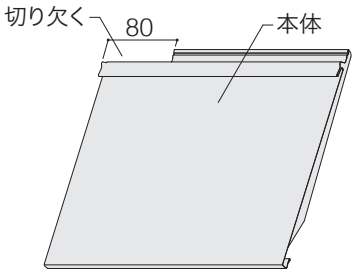
・壁押えD(Ⅱ)内に納める本体の端部は、不要な部分は切り取り、立ち上げてください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように施工してください。

〈流れと平行な壁との納まり〉





・C型捨板は吊り子(現場加工)を使用して留め付けてください。
・本体の端部のくぎ打ち部は、80㎜程度切断してください(右図参照)。
・段付面戸Dは、壁押えD(Ⅱ)と本体の間に入れてください。



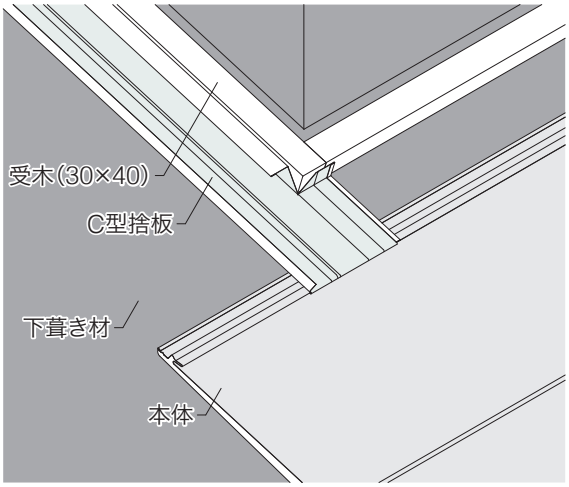
単位：㎜

F．壁との取り合い部　F-2.壁押えD(Ⅱ)＋C型捨板

〈コーナー部分の壁との納まり〉

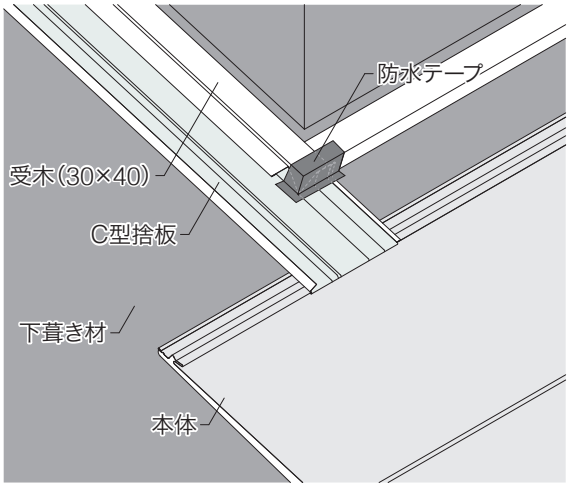
1

・C型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。



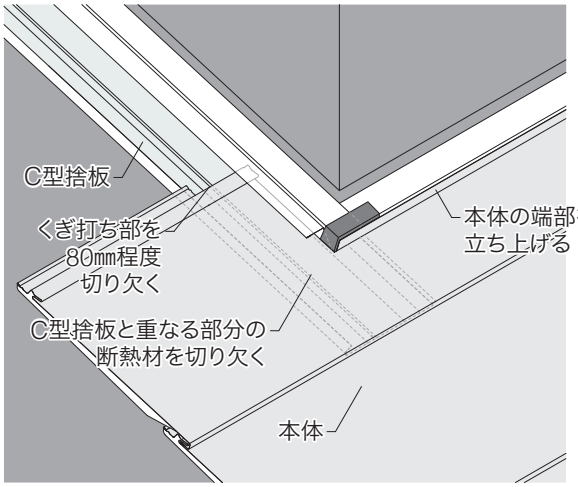
2

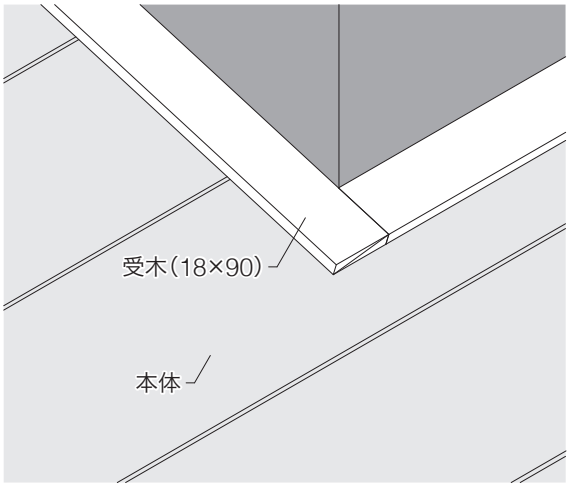
・コーナー部には、防水テープを施工してください。



3

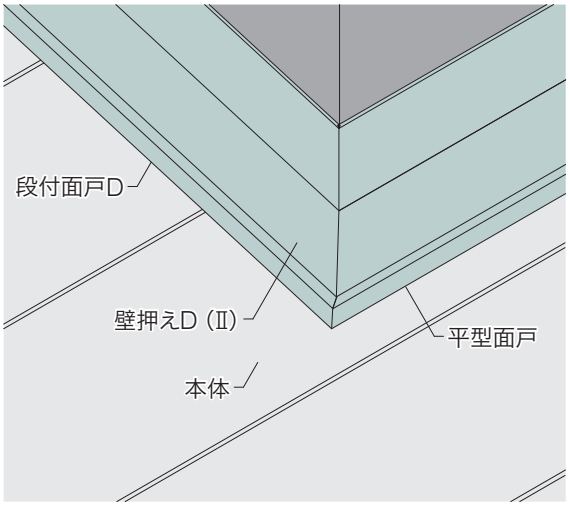
・コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、C型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。
・本体を施工した後、受木(18×90)を取り付けてください。





4

・受木に下葺き材を施工してください。
・段付面戸D、平型面戸を本体に貼り付けてから、壁押えD(Ⅱ)を施工してください。



単位：㎜

G．換気棟の納まり

●換気棟の納まりについて

適用勾配

換気棟／換気棟Lは、屋根勾配2.5寸～ 10寸に施工できます。
片流れ用換気棟は、屋根勾配2.5寸～ 6寸に施工できます。

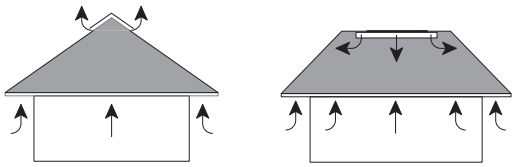
有効開口面積

	有効開口面積（m²/セット）	適応天井面積（m²/セット）
換気棟	0.017	27.2
換気棟L	0.028	44.8
片流れ用換気棟	0.016	25.6

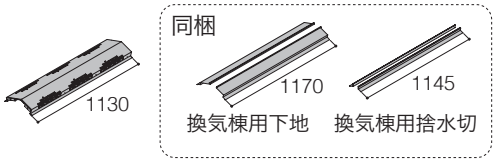
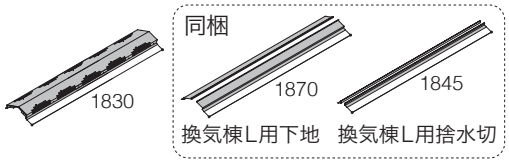
各換気棟の設置基準について

住宅金融支援機構　木造住宅工事仕様書に記載の基準に基づく小屋裏換気を行ってください。
軒裏吸気、棟排気に該当します。施工本数は、施工する部材の有効換気面積および適応天井面積に応じて必要長さを算出してください。

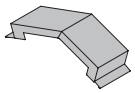
軒裏吸気孔：1／900以上
棟排気孔　：1／1,600以上



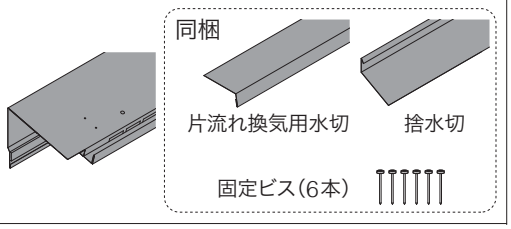
商品図

商品名	商品図
換気棟	
換気棟L	

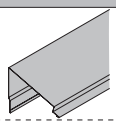
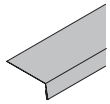
換気棟／換気棟L　併用商品

商品名	商品図
換気棟用エンドキャップ（別売）	

・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。
換気棟または換気棟Lと棟・隅棟包みDとつなぐ場合には、換気棟用エンドキャップを併用してください。

商品名	商品図
片流れ用換気棟	

片流れ用換気棟 併用商品

商品名	商品図
片流れ用棟包み（別売）	
片流れ換気用水切（別売）	

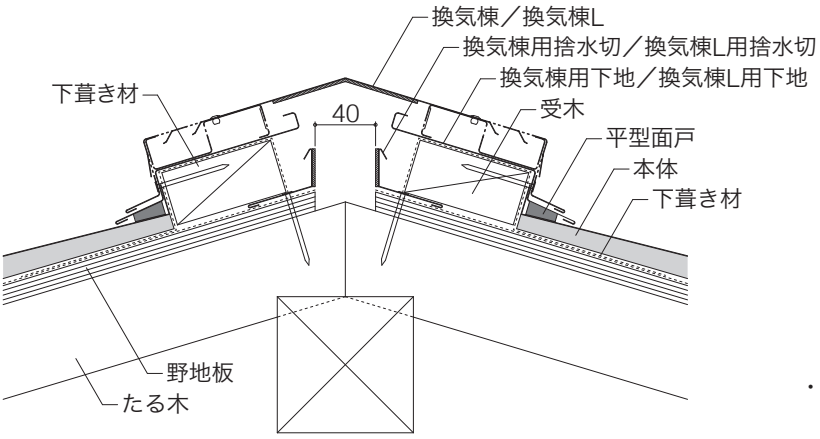
・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切（1本）、捨水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。
・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合、片流れ換気棟用水切を施工してください。

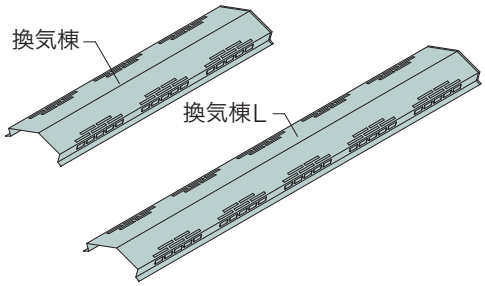
単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-1. 換気棟／換気棟L

納まり図

2.5寸～10寸勾配に対応





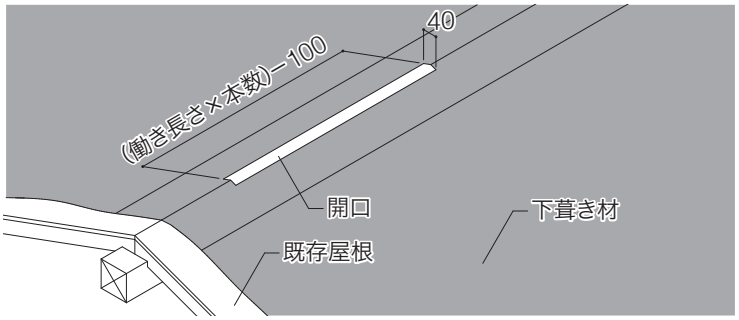
・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。

施工手順　図は換気棟です。換気棟Lの場合も同様に施工してください。

①開口をあける

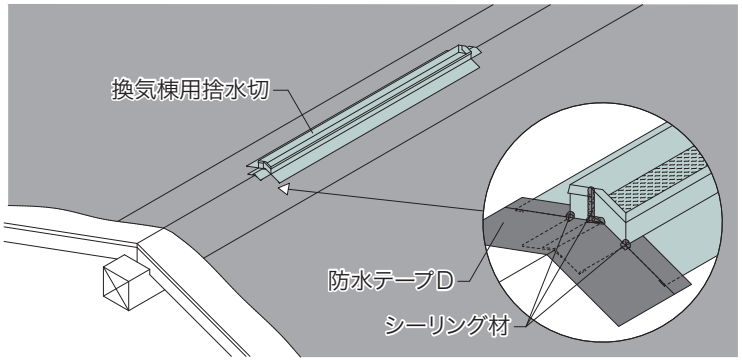
・棟部に右図の寸法で開口を設けてください。

	換気棟	換気棟L
働き長さ（㎜）	1,050	1,750
商品長さ（㎜）	1,130	1,830
対応勾配（寸）	2.5～10	



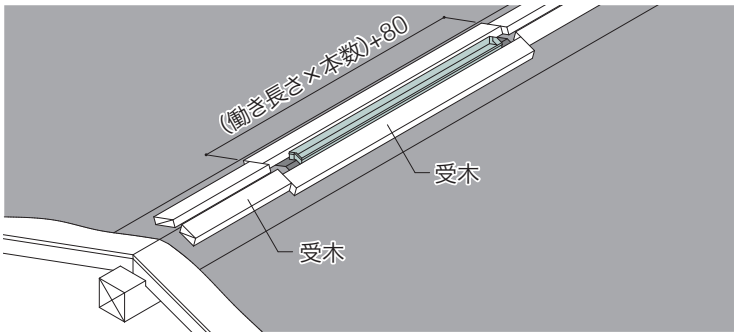
②換気棟用捨水切を施工する

・開口に合わせて換気棟用捨水切を取り付けてください。
・換気棟用捨水切の加工部は、シーリング材で防水処理をしてください。
・換気棟用捨水切と下葺き材とのすき間は、防水テープDで防水処理をしてください。



③受木を取り付ける

・棟・隅棟包みDと換気棟の取り付け位置に合わせて、受木を取り付けてください。
・受木は、高さ36～45㎜、幅60～80㎜を選定してください。幅30～40㎜の受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
・換気棟を取り付ける受木の長さは、右図の寸法で取り付けてください。

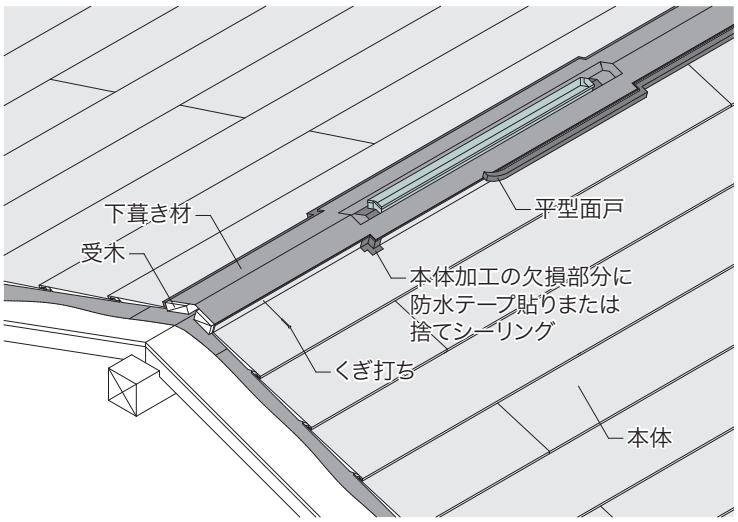


単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-1. 換気棟／換気棟L

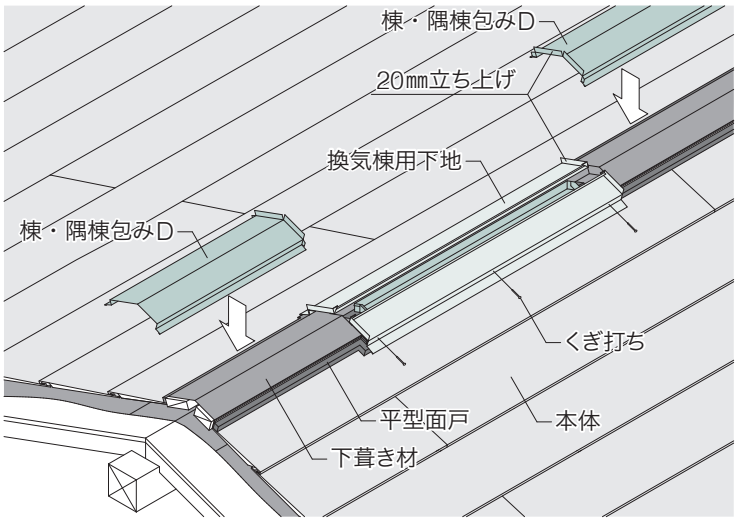
④下葺き材、本体、平型面戸を施工する

・受木の上に下葺き材を施工してください。
・受木まで本体を張り上げ、平型面戸を貼り付けてください。
・棟・隅棟包みDと換気棟の取り合い部の本体は、受木位置に合わせて本体を切り欠き、表面鋼板を立ち上げてください。欠損部分は、防水テープやシーリング材で防水処理を施してください。



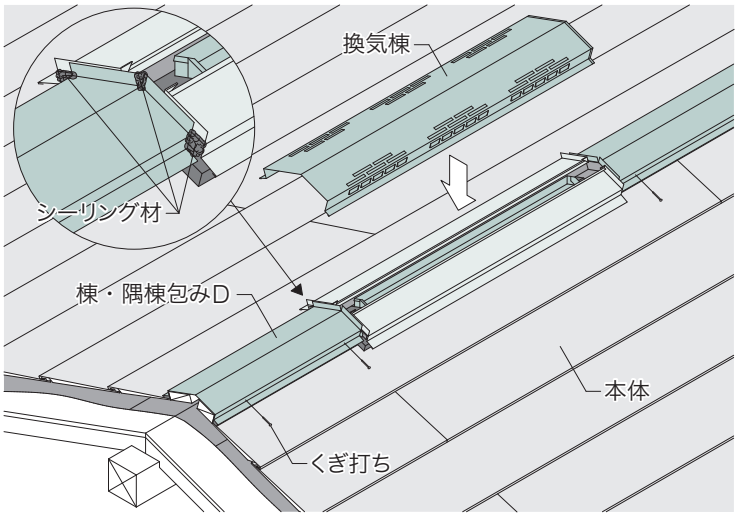
⑤換気棟用下地と棟・隅棟包みDを取り付ける

・換気棟用下地と棟・隅棟包みDを20㎜立ち上げ加工し取り付け、くぎ打ちしてください。
・平型面戸が半分以上圧縮するように押し付けながら施工してください。



⑥換気棟を取り付ける

・換気棟用下地に換気棟をかぶせて取り付けてください。

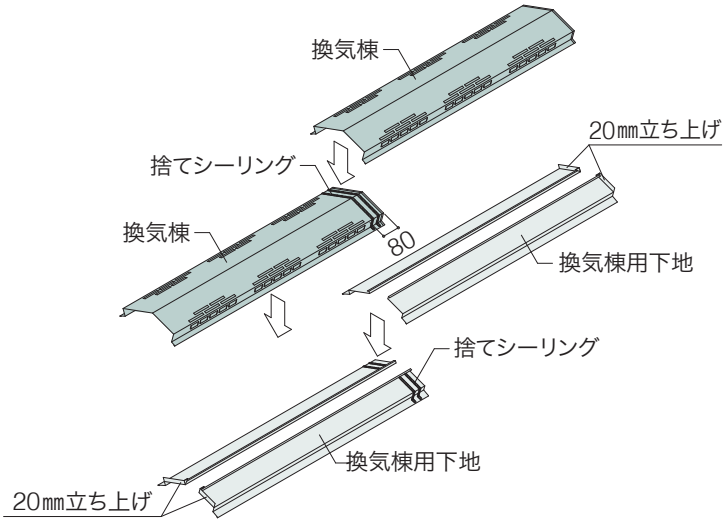


単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-1. 換気棟／換気棟L

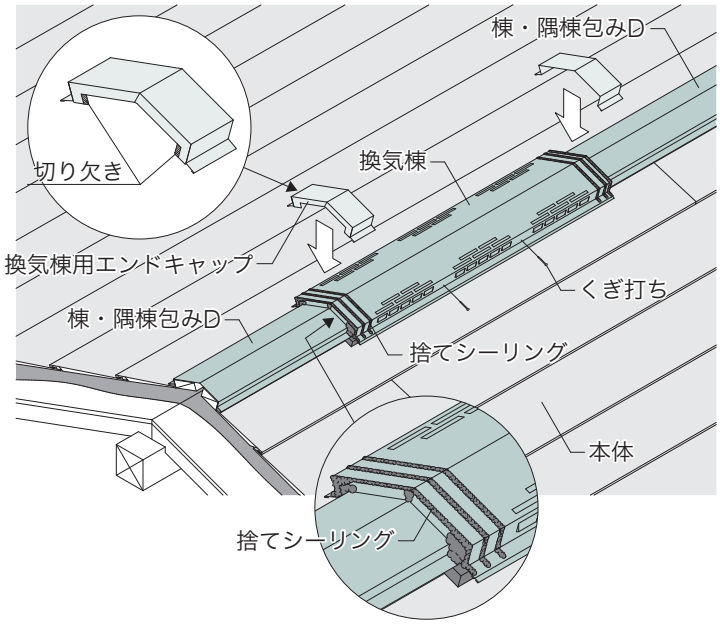
⑦連続施工時の加工方法

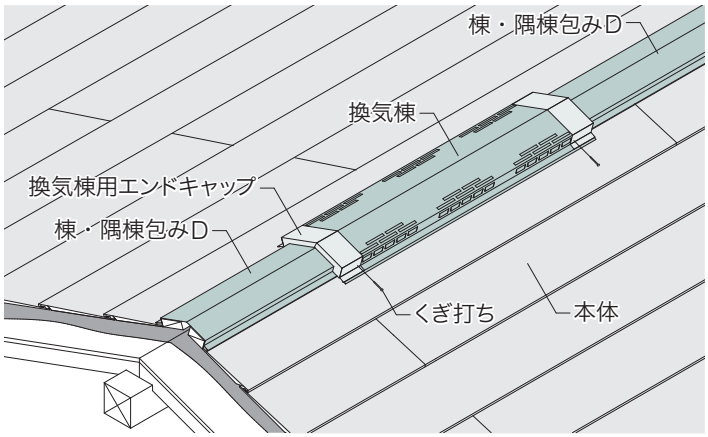
・換気棟を2本以上つなぐ場合は、右図のように捨てシーリングを施工して重ねてください。



⑧換気棟用エンドキャップを取り付ける

・勾配に合わせて右図の部分を切り欠いてください。
・換気棟用エンドキャップと重なる部分には、捨てシーリングを施工してください。



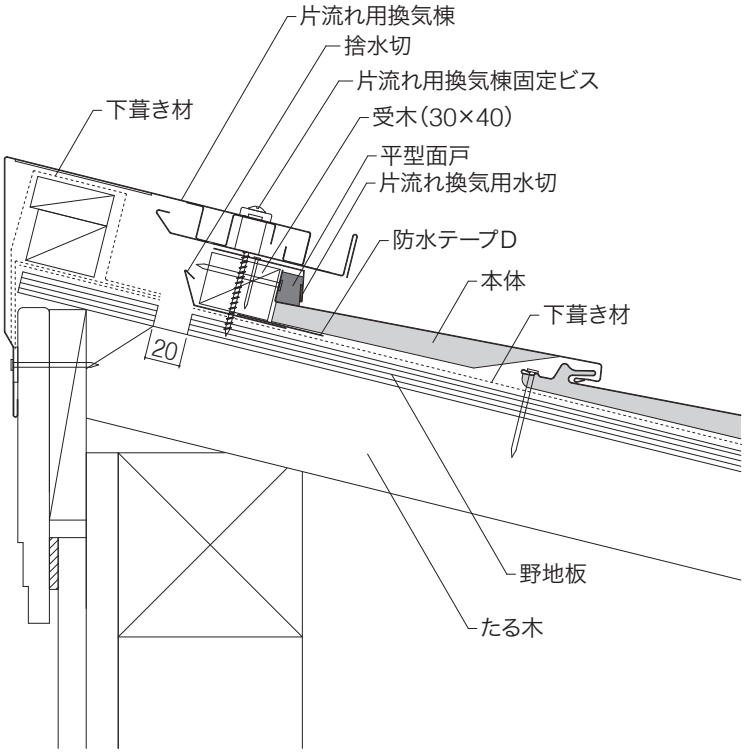


単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-2. 片流れ用換気棟

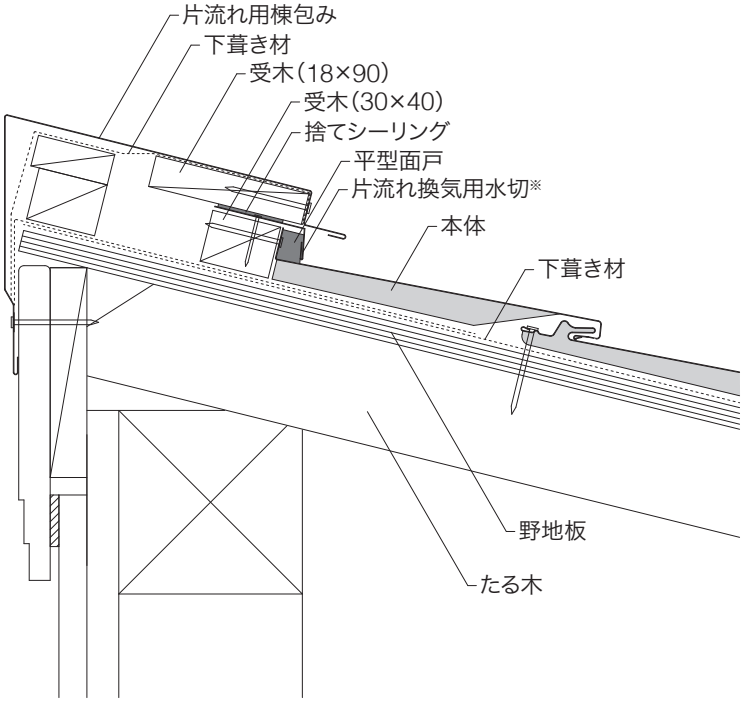
納まり図

2.5寸～6寸勾配に対応



・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切(1本)、捨水切(1本)、固定ビス(6本)が同梱されています。

〈片流れ用棟包み〉片流れ用換気棟とつなぐ場合



・片流れ用棟包みは、片流れ用換気棟とつなぐため、片流れ換気用水切と併用して施工してください。

※　片流れ用棟包みには、片流れ換気用水切が同梱されておりませんので注意してください。

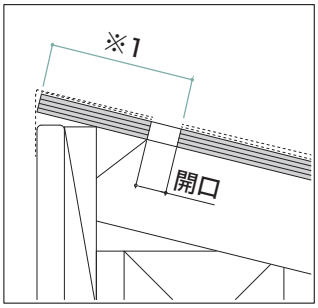
単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-2. 片流れ用換気棟

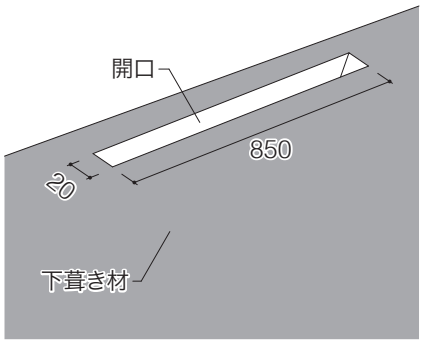
施工手順

①開口をあける

・開口位置を決めます（下図・表参照）。



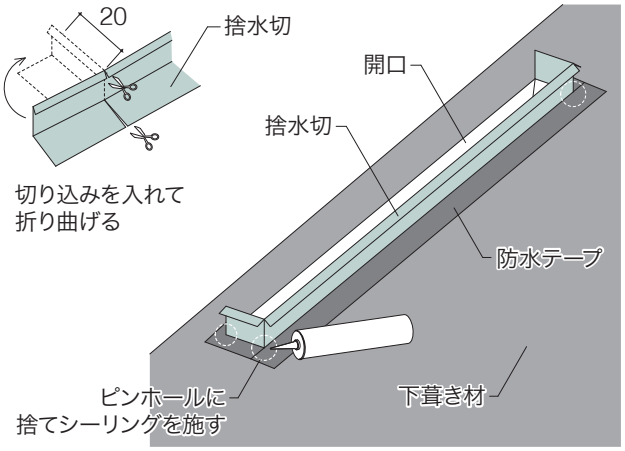
〈※1〉の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	99㎜	4.5 寸	86㎜
3　寸	95㎜	5　寸	82㎜
3.5 寸	93㎜	5.5 寸	79㎜
4　寸	89㎜	6　寸	76㎜



・屋根表面だけでなく、小屋裏の構造も考慮して取り付け位置を決めてください。
・決めた位置に上記の寸法で開口を開けます。
・開口後、下葺き材を張ります。
・連続で施工する場合は、P44を参照してください。

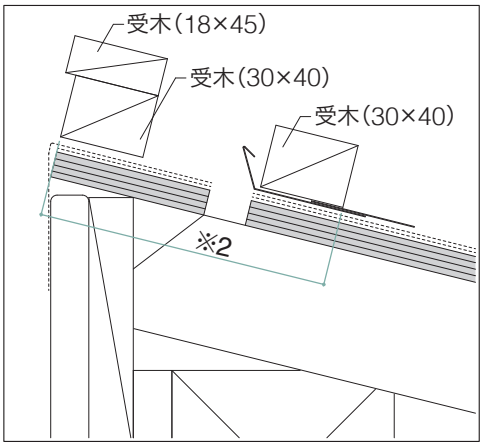
②捨水切の施工

・捨水切は開口より両端20㎜余幅をとっておきます。
・折り曲げ加工をして開口の三方を囲みくぎで留め付け、捨水切加工部とルーフィングとの境界部に防水テープを貼ってください（右図参照）。
・ピンホールなどにはシーリング材を施工してください。



③受木の取り付け

・受木を施工します（下図・表参照）。



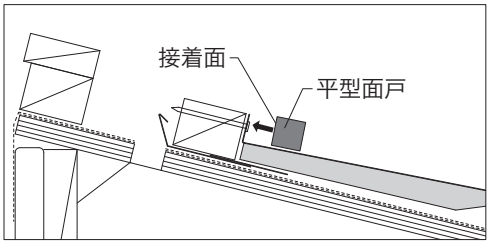
〈※2〉の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	143㎜	4.5 寸	130㎜
3　寸	139㎜	5　寸	126㎜
3.5 寸	137㎜	5.5 寸	123㎜
4　寸	133㎜	6　寸	120㎜

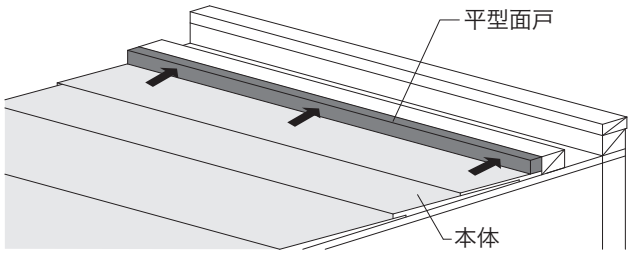
単位：㎜

G. 換気棟の納まり　G-2. 片流れ用換気棟

④本体の施工と先端加工

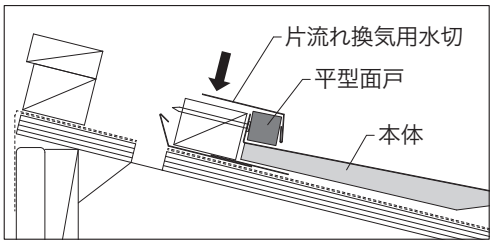
・③で施工した受木まで本体を葺き、先端部分は立ち上げておきます。
・立ち上げた本体の側面に平型面戸を貼り付けます。

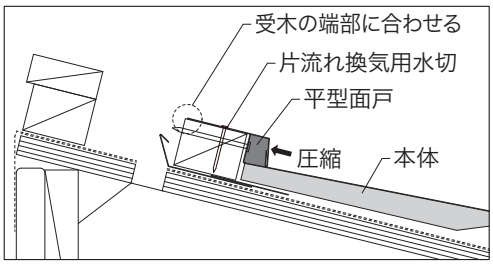


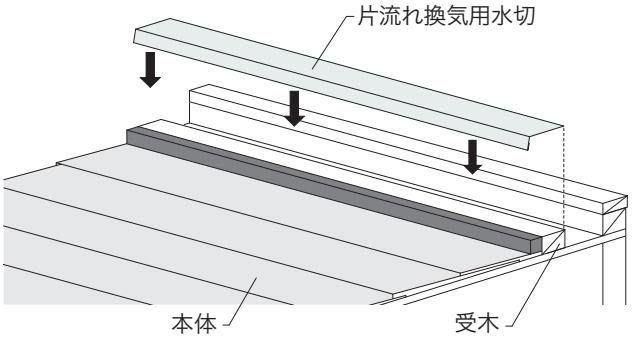


⑤片流れ換気用水切の施工

・片流れ換気用水切を平型面戸と受木を覆うように施工します。片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合は、片流れ換気用水切を必ず併用して、施工してください。
・平型面戸を圧縮し、受木の端部に片流れ換気用水切を合わせて留め付けてください。

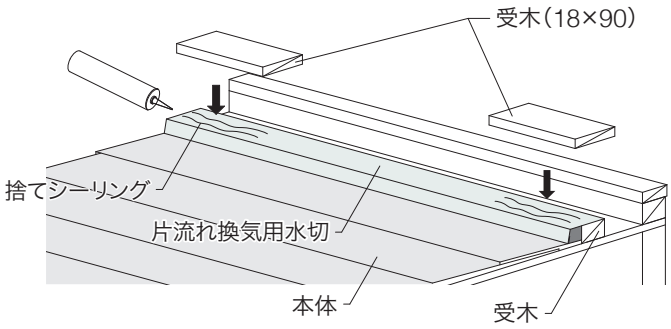






⑥受木（18×90）の施工

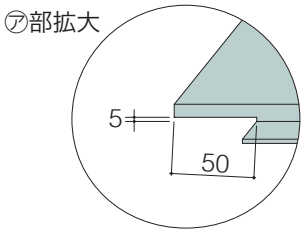
・片流れ用棟包みを取り付ける場所に受木（18×90）を置きます。
・受木（18×90）を置く場所にシーリング材で防水処理をしてください。

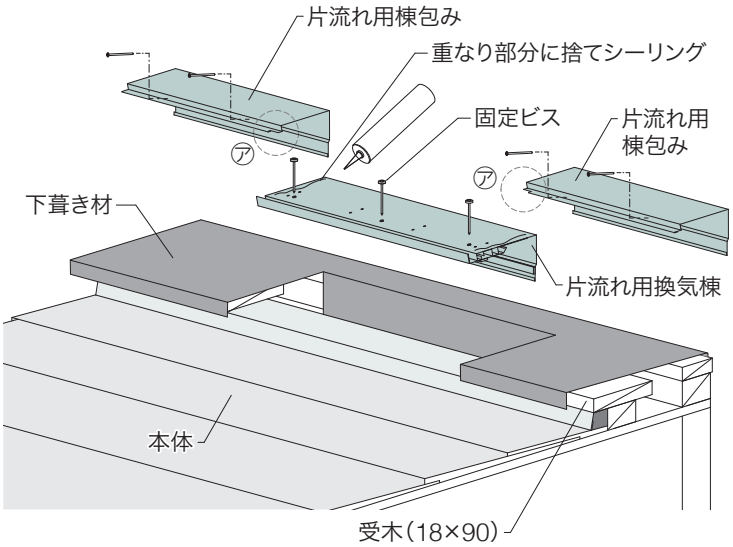


G. 換気棟の納まり　G-2. 片流れ用換気棟

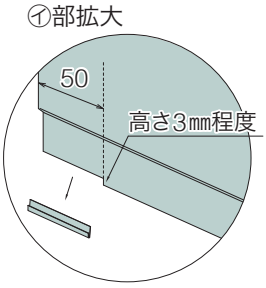
⑦片流れ用換気棟、片流れ用棟包みの取り付け

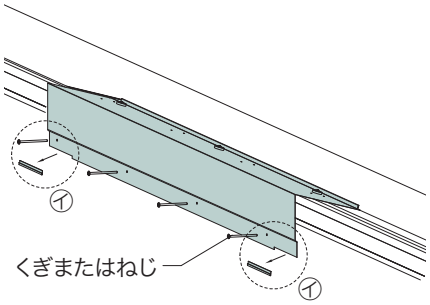
⑦-1. 屋根面の施工
- 受木の上に下葺き材を施工してください。
- 右図を参照して片流れ用換気棟と片流れ用棟包みを施工します。
- 片流れ用換気棟は固定ビスで上部の下穴に留め付けてください。
- 片流れ用換気棟の右側に片流れ用棟包みを施工する場合は、下図（㋐部拡大）を参考に、重なる部分をあらかじめカットしてください。
- 接合重なり部分にはシーリング材で防水処理をしてください。

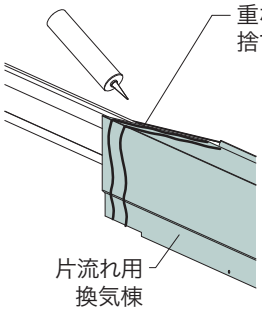


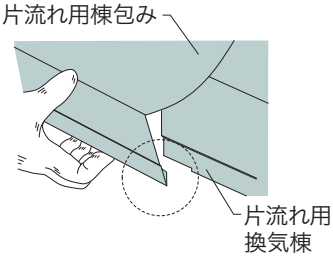


⑦-2. 壁面の施工
- 壁面には、くぎまたはねじで留め付けてください。
- 片流れ用換気棟の重ね代は、下から3㎜、幅50㎜程度切り欠いてください（㋑部拡大）。
- 片流れ用換気棟の重ね代は、図のように捨てシーリングを施してください。
- 片流れ用棟包みの垂れの折返し部分を片流れ用換気棟切り欠き部分に引っ掛けて接合してください。





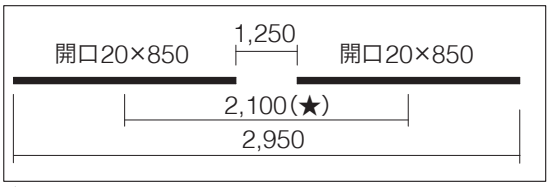




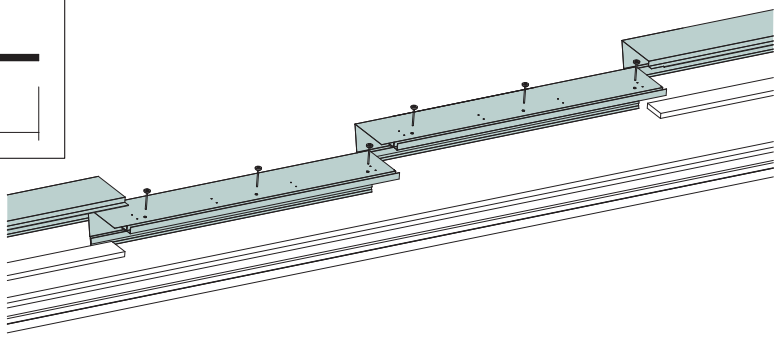
⑧連続施工時の開口間寸法

- 片流れ用換気棟同士の連続施工の場合は、野地板の開口は片流れ用換気棟の中心を振り分けるか、または下の開口寸法図を参考にして開けてください。開口同士は、通して開けないでください。

連続施工時のピッチ



★印は開口のセンター間の寸法になります。



単位：㎜

H. 雪止めの納まり

● スーパーガルテクト用雪止めの取り付け基準

① 適用範囲

スーパーガルテクト用雪止め（雪止めＧＴ（Ⅲ）ハネタイプ、雪止めＧＴ（Ⅳ）ハネタイプ）は、一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30㎝以下の地域）で使用してください。すがもれのおそれがあります。

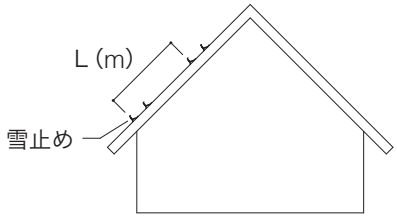
② １段あたりが負担できる屋根の流れ長さ：L（m）※1

・対象となる物件（地域）の積雪単位荷重を確認し、下表より雪止めの必要段数を求めてください。
　必要段数＝屋根の流れ長さ÷1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ
・屋根材の静止摩擦係数（μ）の値は0.05としています。
・下表以外については、弊社にお問い合わせください。

積雪単位荷重：２[kg/m²・㎝]の場合

積雪量	勾配（寸）						
	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸	5.5寸	6寸	6.5寸
10㎝	20m※2	19.0m	16.9m	15.3m	14.1m	13.1m	12.3m
20㎝	10.9m	9.5m	8.5m	7.7m	7.0m	6.6m	6.2m
30㎝	7.3m	6.3m	5.6m	5.1m	4.7m	4.4m	4.1m

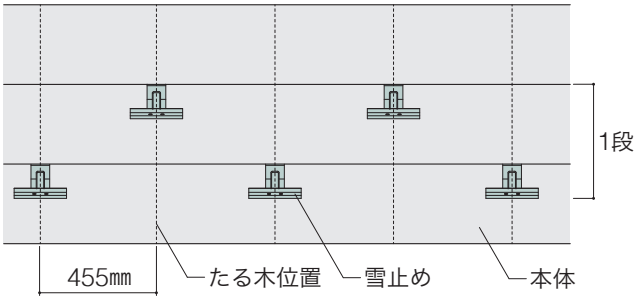
※１　3.5寸未満の勾配は、1段あたりが負担できる屋根の流れ長さを7mとしてください。
※２　この値は、流れ長さの制限に合わせています。（P1参照）

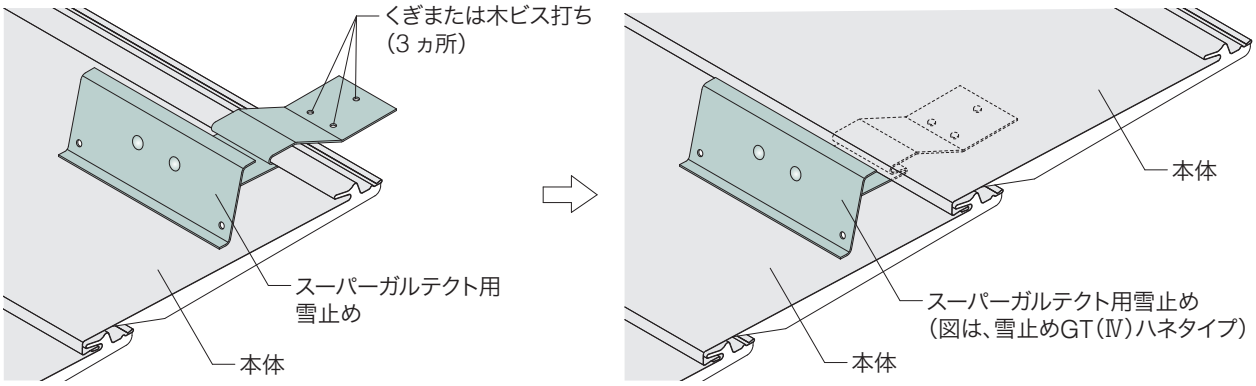


③ １段あたりの雪止めの取り付け配置

・１段とは千鳥に２列（455㎜間隔）取り付けることを意味します。
・表より求めた、必要段数の雪止めを施工してください。
・基準通りに取り付けても、気象条件などによっては、雪が落下することがあります。

⚠ 雪止めを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。



●スーパーガルテクト用雪止めの取り付け方

・かん合部に合わせて、たる木に取り付けてください。
・スーパーガルテクト用雪止めは先付けです。後付けはできません。
・本体と同様の留め具を用いて留め付けてください。